

令和7年度  
第66回 宮崎県学校体育研究発表大会  
延岡・西臼杵地区大会

# 大会報告書

## 研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、  
継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習  
～ 児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開 ～



【期日】 令和7年10月17日(金) 中学校部会・特別支援学校部会  
令和7年11月7日(金) 小学校部会・高等学校部会

■主催 宮崎県学校体育研究会

■共催 宮崎県教育委員会 延岡市教育委員会 高千穂町教育委員会  
日之影町教育委員会 五ヶ瀬町教育委員会

■会場 小学校部会 延岡市(延岡市立南方小学校)  
中学校部会 延岡市(アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ)  
高等学校部会 延岡市(県立延岡星雲高等学校)  
特別支援学校部会 延岡市(県立延岡しろやま支援学校)

# 目 次

1	実施要項	1
2	研究計画と内容	
	○宮崎県のつながりのある学習の研究	9～12
3	小学校部会要項	
	○視点説明（つながり、地区）	15～17
	○研究の変容と研究の成果	18～21
	【事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果】	
	○授業研究会の記録	22～30
	【授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評】	
4	中学校部会要項	
	○視点説明（つながり、地区）	33～36
	○研究の変容と研究の成果	37～39
	【事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果】	
	○授業研究会の記録	40～44
	【授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評】	
5	高等学校部会要項	
	○視点説明（つながり、地区）	47～49
	○研究の変容と研究の成果	50～53
	【事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果】	
	○授業研究会の記録	54～59
	【授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評】	
6	特別支援教育部会要項	
	○視点説明（つながり）	63～65
	○研究の変容と研究の成果	66～67
	【事前研究会からの変化、視点に対する最終的な成果】	
	○授業研究会の記録	68～72
	【授業者振り返り、質疑応答内容、指導講評】	
7	大会役員名簿	
	○大会役員	73～74
	○県実行委員会	75

## 第66回宮崎県学校体育研究発表大会 延岡・西臼杵地区大会開催要項

### 1 目 的

学校体育に関する研究成果の発表と指導上の諸問題について研究協議を行い、学習指導法の改善・充実に努め、本県学校体育の進展を図る。

### 2 主 催

宮崎県学校体育研究会

### 3 共 催

宮崎県教育委員会 延岡市教育委員会 高千穂町教育委員会 日之影町教育委員会  
五ヶ瀬町教育委員会

### 4 後 援

宮崎市市町村教育委員会連合会 宮崎県校長会 宮崎県県立学校長協会  
宮崎県私立中学高等学校協会

### 5 主 管

第66回宮崎県学校体育研究発表大会実行委員会  
延岡市小学校体育連盟・西臼杵郡小学校体育連盟  
延岡地区中学校体育連盟・西臼杵地区中学校体育連盟  
宮崎県高等学校体育連盟県北支部  
宮崎県特別支援学校体育連盟県北支部

### 6 期 日

令和7年10月17日（金） 中学校部会、特別支援学校部会  
令和7年11月 7日（金） 小学校部会、高等学校部会

### 7 参加対象

小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の教員  
教育委員会その他の関係機関・団体の学校体育関係者

### 8 会 場

種 別	会 場
小 学 校 部 会	延岡市立南方小学校
中 学 校 部 会	アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ
高 等 学 校 部 会	宮崎県立延岡星雲高等学校
特別支援学校部会	宮崎県立延岡しろやま支援学校

### 9 研究主題

《県研究 [つながりのある学習] 》 (令和5～7年度)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを  
実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習  
～児童生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～

《部会研究》

小学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方 ～児童生徒一人一人の思考力，判断力，表現力等を養う授業の創造と展開～

10 日 程

11月7日 (金)	小学校部会	9:30	10:10	11:10	14:55	15:45					
		9:00	10:00	10:55	11:55	12:55	14:45	15:40	16:00		
		受付	開会行事 研究発表 視点説明	授業発表 I (つながり)	授業発表 II (各部会)	昼休準備 食憩備	授業研究	ポスター セッション (3コーナー)	閉会行事		
		(30分)		(45分)	(45分)		(110分)				
会場： 延岡市立南方小学校											
10月17日 (金)	中学校部会	9:10	9:50	10:55	14:55	15:45					
		8:40	9:40	10:40	11:45	12:30	14:40	15:40	16:00		
		受付	開会行事 研究発表 視点説明	授業発表 II (各部会)	授業発表 I (つながり)	昼休準備 食憩備	ワークショップ 授業研究	各地区 研究発表	閉会行事		
		(30分)		(50分)	(50分)		(130分)	(45分)			
会場： アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ											
11月7日 (金)	高等学校部会	9:50	10:15	10:45	12:25	13:30	15:10	15:45			
		9:20	10:00	10:35	11:40	13:20	15:00	16:00			
		受付	開会行事	教科研究委員会 発表	視点説明	授業発表 I (つながり)	昼休準備 食憩備	授業発表 II (各部会)	ワークショップ 授業研究	研究発表	閉会行事
		(10分)	(15分)	(20分)	(55分)	(45分)	(55分)	(90分)	(35分)		
会場： 宮崎県立延岡星雲高等学校											
10月17日 (金)	特別支援学校部会	10:00	10:40	11:40	13:00	14:10	14:50				
		9:30	10:30	11:30	12:00	14:00	14:40	15:00			
		受付	開会行事 視点説明	授業発表 I (つながり)	授業研究会 I 研究発表協議	昼休準備 食憩備	授業研究会 II ワークショップ 授業研究	研究発表	閉会行事		
		(30分)		(50分)	(20分)		(60分)	(30分)			
会場： 宮崎県立延岡しろやま支援学校											

## 11 内容

### (1) 小学校部会

#### ① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
役職名	氏名
研究発表者 視点説明	延岡市立東小学校 教諭 藤井航平

#### ② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	第4学年	ネット型ゲーム 「ソフトバレーボール」	延岡市立東海小学校 教諭 野中海仁
II (地区)	第5学年	ネット型 「ソフトバレーボール」	延岡市立南方小学校 教諭 田中大希

#### ③ ワークショップ型授業研究

役職名	氏名		
指導助言者	南九州大学人間発達学部	教授	宮内 孝
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	財津吉正
司会者	宮崎市立国富小学校	教諭	安藝良介
記録者	小林市立栗須小学校	教諭	山下 駿
	高原町立後川内小学校	教諭	森永 亜由美
進行	新富町立上新田小学校	教諭	関戸 映

#### ④ 研究発表

	研究発表題目	発表者
	生涯にわたる心身の健康と豊かなスポーツライフ支える資質能力の育成を目指して ～思考力、判断力、表現力等を育む少人数体育学習～	日之影町立宮水小学校 教諭 渡辺智彬
進行・司会者	椎葉村立不土野小学校	教諭 河野要世
記録者	西都市立茶臼原小学校	教諭 横山正文

	研究発表題目	発表者
	一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方 ～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業作りを通して～	えびの市立上江小学校 教諭 串間洵郎
進行・司会者	日向市立美々津小学校	講師 壺岐直澄
記録者	国富町立森永小学校	教諭 新原 翼

	研究発表題目	発表者
	児童が思考・判断・表現しながら技能を向上させる授業の在り方 ～指導と評価の一体化を意識した授業改善を通して～	日南市立桜ヶ丘小学校 教諭 黒木大翔
進行・司会者	都城市立川東小学校	教諭 松山拓磨
記録者	串間市立本城小学校	教諭 宇佐季笑

## (2) 中学校部会

### ① 研究発表及び視点説明

活動報告及び研究発表題目	発表者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方	宮崎市立宮崎西中学校 教諭 上妻 憲 祐
(視点説明) 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	延岡市立北川中学校 教諭 原田 卓 弥

### ② 授業発表

	学 年	単 元	発表者
I (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型：テニス)	延岡市立南中学校 教諭 前田 啓 介
II (地区)	第2学年	体 育 理 論 (運動やスポーツの学び方)	延岡市立西階中学校 教諭 徳 淵 喬

### ③ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名		
指導助言者	宮崎大学教育学部	教授	日高正博
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	甲斐浩記
司会者	新富町立富田中学校	教諭	浮島大介
記録者	小林市立三松中学校	教諭	岡上 桂
	宮崎市立大淀中学校	教諭	水元 竜太郎
進行	美郷北義務教育学校	教諭	佐藤 浩 行

### ④ 地区研究発表

	【 地 区 】 研究発表題目	発表者
1	【 日向 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日向市立東郷学園 教諭 矢野 正 道
2	【 宮 崎 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 寶田 光 貴
3	【 都 城 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	都城市立山之口中学校 教諭 鹿島 鉄 平
4	【 南 那 珂 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日南市立飫肥中学校 指導教諭 田 中 美津子

(3) 高等学校部会

① 教科研究委員会発表

内 容	発 表 者
生徒の「思考力, 判断力, 表現力等」の資質・能力を 育む手立ての工夫 ～ 思考ツール活用の在り方 ～	県立小林秀峰高等学校 教 諭 太田 聡 (県高体連 教科研究委員長)

② 視点説明

視 点 説 明	県立五ヶ瀬中等教育学校	教 諭 吉 岡 奈津希
---------	-------------	-------------

③ 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型:バドミントン)	県立延岡星雲高等学校 教 諭 近 藤 伸 哉
II (地区)	第2学年	保 健 (医薬品の制度とその活用)	県立延岡星雲高等学校 教 諭 加 藤 順 也

④ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名		
指導助言者	日 本 女 子 体 育 大 学	教 授	高 橋 修 一
司 会 者	県 立 妻 高 等 学 校	教 諭	角 田 太
コーディネーター	県立小林秀峰高等学校	教 諭	太 田 聡
	県立高千穂高等学校	教 諭	甲 斐 奎 佑
記 録 者	延岡学園高等学校	講 師	楠 元 龍 水
	県立延岡工業高等学校	教 諭	山 中 貴 弘

⑤ 研究発表

	研 究 発 表 題 目	発 表 者
1	【西諸支部】 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを 実現するとともに継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力, 判断力, 表現力等を養う球技ネット型の授業をとおして～	県立飯野高等学校 教 諭 都 甲 尚 寛
2	【宮崎・東諸支部】 ICTとシンキングツールを活用した授業の展開 ～「主体的・対話的で深い学び」を生み出す環境づくり～	宮崎学園高等学校 教 諭 溝 口 政 志
役 職 名	氏 名	
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事 白 石 剛 二
司 会 者	県 立 妻 高 等 学 校	教 諭 角 田 太
記 録 者	県立日向高等学校	教 諭 濱 田 悠 暉
	県立門川高等学校	教 諭 寺 田 勢 哉

#### (4) 特別支援学校部会

##### ① 視点説明

視点説明	県立延岡しろやま支援学校	教諭	金田健吾
------	--------------	----	------

##### ② 授業発表

	学年	単元	発表者
I (つながり)	高等部	球技 (バドミントン)	県立延岡しろやま支援学校 教諭 上野航

##### ③ 授業研究会Ⅰ・授業研究会Ⅱ

役職名	氏名		
指導助言者	日本体育大学体育学部	准教授	村井敬太郎
担当者	県立清武せいりゅう支援学校	教諭	長友啓輔
司会者	県立延岡しろやま支援学校	教諭	伊東寿晃
記録者	県立延岡しろやま支援学校	教諭	野田航平
	県立清武せいりゅう支援学校	教諭	小松鉄平
進行	県立みなみのかぜ支援学校	教諭	檜木理美

##### ④ 研究発表

活動報告及び研究発表題目		発表者	
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習～「ひなたの学び」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指して～		県立児湯るぴなす支援学校 教諭 坂田拓也	
役職名	氏名		
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事	五十嵐 舞
進行	県立みなみのかぜ支援学校	教諭	檜木理美

## 12 参加申込み方法

下記期日までに以下のアドレス、または二次元コードを利用して申し込むこと。

※大会役員・実行委員もそれぞれ申込みをして下さい。

小学校部会	中学校部会	高等学校部会	特別支援学校部会
申込締切 10月17日(金)	申込締切 9月26日(金)	申込締切 10月17日(金)	申込締切 9月26日(金)
			
<a href="https://forms.gle/ZQXDzjqwr8e9Xx4AA">https://forms.gle/ZQXDzjqwr8e9Xx4AA</a>	<a href="https://forms.gle/ECXyCz5GTSYH8kNA9">https://forms.gle/ECXyCz5GTSYH8kNA9</a>	<a href="https://forms.gle/hiuUh8Uk9hma4rVz7">https://forms.gle/hiuUh8Uk9hma4rVz7</a>	<a href="https://forms.gle/2tALj3uRWfb9xfyu8">https://forms.gle/2tALj3uRWfb9xfyu8</a>

【問い合わせ先】

宮崎県学校体育研究会事務局（高体連事務局内）

電話 0985-51-4109

第 66 回宮崎県学校体育研究発表大会

延岡・西臼杵地区大会

研究計画・内容



# 令和7年度 第66回宮崎県学校体育研究発表大会延岡・西臼杵大会 研究計画

## 1 宮崎県の研究主題 (R5～7年度)

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習  
～児童生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～

## 2 部会別研究主題

部会名	主 題
小学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～
中学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～
高等学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習 ～生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～
特別支援学校部会	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習 ～児童生徒一人一人の思考力,判断力,表現力等を養う授業の創造と展開～

## 3 主題の設定理由

### (1) 学習指導要領の趣旨

学習指導要領では、「生きる力」について「①何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識及び技能』の習得）」、「②理解していること、できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力,判断力,表現力等」の育成）」、「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力,人間性等」の涵養）」の三つの柱に整理され、育成を目指す資質・能力を明確化した。

その中で、体育科・保健体育科の基本的な考え方としては、心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、体育や保健の見方・考え方を働かせた「知識及び技能」、「思考力,判断力,表現力等」、「学びに向かう力,人間性等」の三つの資質・能力を育成することを目標として示している。

その達成のために、学習過程については、これまでの自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を引き続き重視するとともに、三つの資質・能力を確実に身につけるために、その関係性を重視した学習過程を工夫する必要があるとしている。

また、指導内容については、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って示すこととし、体育及び保健において小学校、中学校、高等学校を通じて系統性がある指導ができるよう示す必要があるともしている。

さらには、運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にもかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有し、卒業後も社会で実践することができるよう、共生の視点を重視して改善を図ることとしている。

## (2) 宮崎県の児童生徒の実態

令和6年度の宮崎県体力・運動能力、生活習慣等調査では、前年度に比べ、体力向上が見られる項目が増えているが、引き続き低下している項目もある。体力の合計得点についても、全体的に回復傾向にあるが、中学生の女子が低下傾向にある。

県の課題である「握力」については、全ての校種において、ここ数年ほぼ横ばいの状況が続いている。「シャトルラン」及び「ボール投げ」については、全体的に回復傾向にあるものの、中学生と高校生の女子が低下傾向である。

「長座体前屈」については、年々向上する結果となっている。

アンケートによる調査結果からは、体力が高い児童生徒はスクリーンタイムが短い傾向にあるという結果となっている。

本県児童生徒の体育授業の愛好度については、「大変好き」「好き」と回答した児童生徒の割合が、小学校が94.2%、中学校が89.6%、高等学校が91.5%となっており、体育授業が楽しいと感じる児童生徒が多い状況である。

## (3) 宮崎県学校体育研究会が進める研究

本県では、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達の段階に応じた指導方法・評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行っている。

そこで、令和5～7年度は「ボール運動系」及び「球技」の「ネット型」において研究を深め、小中高特による「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指す。

『つながりのある学習』における、「つながり」は、単に教材や領域種目を揃えることによるつながりではなく、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の12年間を見通し、発達の段階に応じて系統化された指導内容を明確化し、小中高特が同じ視点を持ちながら授業を展開することである。

「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容を、児童生徒に確実に身につけさせるために、授業への基本的な考え方や目指す児童生徒像を明確にし、共有認識をもちながら研究を進めていく必要がある。

## 4 研究を進めるにあたって

小中高特の「つながりのある学習」を展開する中で、体育科・保健体育科が育成を目指す三つの資質・能力を児童生徒が身に付けるために、以下の基本方針により研究を進めることとする。

### ① 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 発達の段階のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図る。
- ・ 指導の改善及び児童生徒の学習意欲の向上を図るとともに、個別最適な学びを実現するために、指導と評価の一体化を図る。

### ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 課題解決のための言語活動の充実や情報活用能力の育成、体験を伴う活動の充実などにより学習活動の質の向上を目指す。

### ③ 共生の視点に立った指導内容の充実

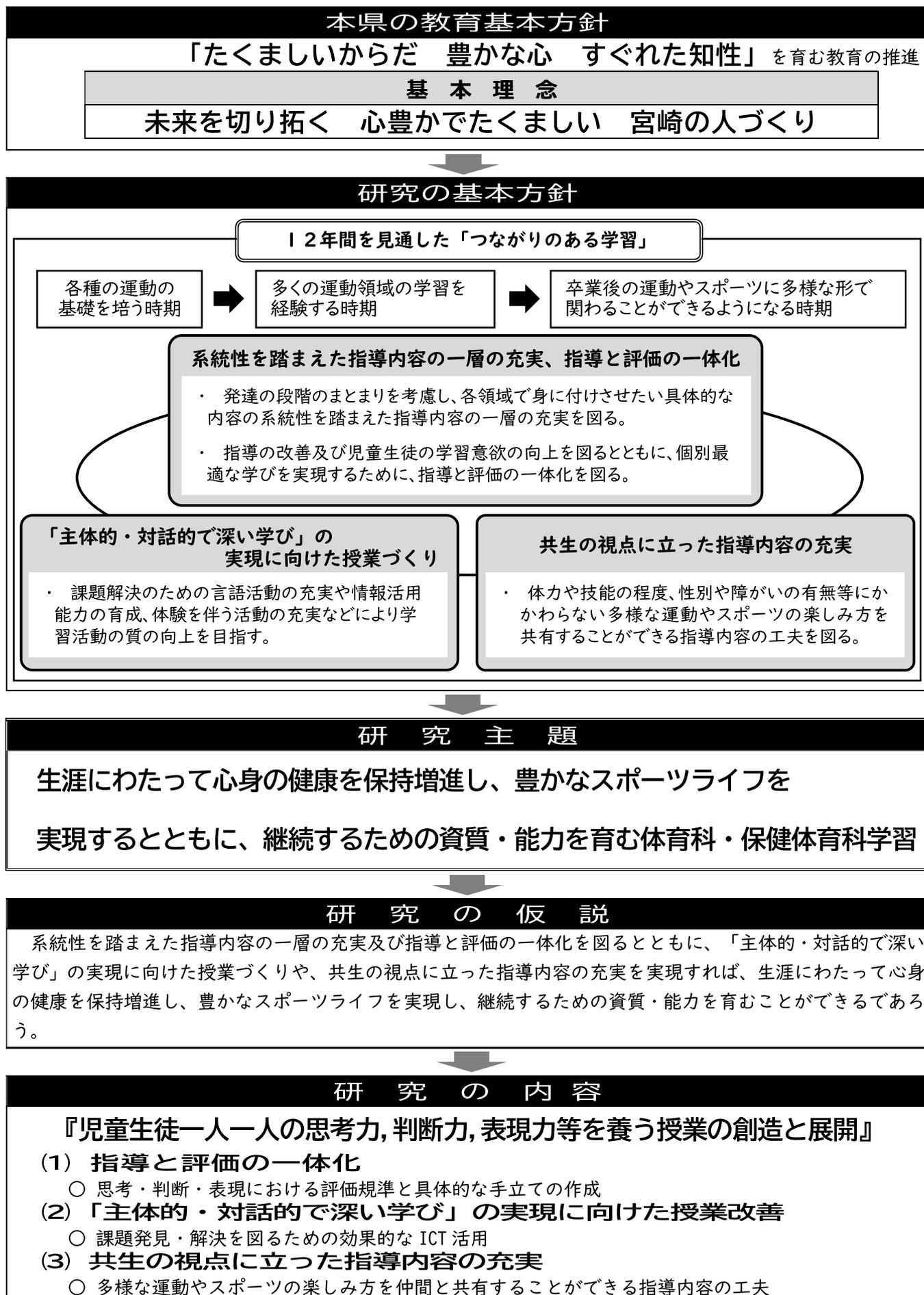
- ・ 体力や技能の程度、性別や障がいの有無等にかかわらず多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫を図る。

また、主題を「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」と設定し、体育や保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目標とし、多角的な視点での研究を進めることとする。

## 5 研究の仮説

系統性を踏まえた指導内容の一層の充実及び指導と評価の一体化を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりや、共生の視点に立った指導内容の充実を実現すれば、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現し、継続するための資質・能力を育むことができるであろう。

## 6 研究の概要（研究構想図）



## 7 研究の内容

### 【研究の方向性の整理】

本県では、令和5年度から令和7年度までの3年間は、「球技ネット型」の研究を深め、小中高特における「つながりのある学習」の一層の充実を図ることを目指している。これまで、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校における12年間の体育科・保健体育科学習を通して、学習内容の確実な定着を目指し、校種の接続及び発達段階に応じた指導方法や評価の工夫を行い、豊かなスポーツライフの実現に向けた児童生徒を育てるための具体的な実践を行ってきた。主に「スキルアップテキスト」や「学習内容系統表（技能編）」を作成したり、タブレット端末で試技を撮影することで課題発見・課題解決をしたりし、「知識及び技能」を中心に据えた研究から「つながりある学習」を展開することができた。

令和5年度の串間・日南地区大会からは、「思考力、判断力、表現力等」を中心に据えて研究を深め、「つながりのある学習」の一層の充実を図っている。この大会では、「学習内容系統表（思考力、判断力、表現力等）」や「思考ツール活用事例集」の作成に取り組み、「思考力、判断力、表現力等」の育成を進めた。

令和6年度の小林・えびの・高原大会においては、デジタル学習カードの活用や、共生の視点に立った教材・教具の工夫を行い、「思考力、判断力、表現力等」に関する研究をさらに深めた。

本年度の延岡・西臼杵地区大会は、3年計画の最終年であることを踏まえ、これまでの研究との「つながり」を意識しつつ、研究内容を以下の3点に整理して研究を進めている。

- (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化
  - 思考・判断・表現における評価規準と具体的な手立ての作成
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり
  - 課題発見・解決を図るための効果的な ICT 活用
- (3) 共生の視点に立った指導内容の充実
  - 多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫

### (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

体育科・保健体育科における思考力、判断力、表現力等について実現状況を判断する目安を作成した。作成に当たっては、学習指導要領の例示を参考にし、できるだけ分かりやすい表現に整理して、授業で活用しやすいものとなるよう工夫した。また、C・B評価の児童・生徒に対する教師側の手立てを設定することで指導と評価の一体化を図った。

### (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

これまで ICT 機器を使用した思考ツールの活用や、デジタル学習カードの活用に関する研究を通じて課題の解決を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりを行ってきた。本年度は、これまでの研究の成果である課題解決に関する ICT の活用に加え、課題を発見するための ICT 活用について各校種で研究を行った。

### (3) 共生の視点に立った指導内容の充実

共生の視点に立った球技ネット型の学習における教材及び教具の工夫や態度に関する指導の充実を図った。教材及び教具については、「人」「もの」「ルール」の観点から各校種でアプローチを行った。また、態度に関する指導についても単元を通して行うことで、豊かな人間関係や共感的な態度の育成を目指した。

第66回宮崎県学校体育研究発表大会  
小 学 校 部 会

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科学習  
～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日 程

11月7日 (金)	小 学 校 部 会	9:30	10:10	11:10		14:55	15:45	
		9:00	10:00	10:55	11:55	12:55	14:45	15:40 16:00
		受付	研究会 発表 視点説明 (30分)	授業発表 I (つながり) (45分)	授業発表 II (各部会) (45分)	昼休準備 食憩備	授業研究 (110分)	ポスター セッション (3コーナー)
会場： 延岡市立南方小学校								

① 研究発表・視点説明

発表題目	生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の基礎を育む体育科学習 ～児童一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～
役職名	氏 名
研究発表者 視点説明	延 岡 市 立 東 小 学 校 教 諭 藤 井 航 平

② 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	第4学年	ネット型ゲーム 「ソフトバレーボール」	延 岡 市 立 東 海 小 学 校 教 諭 野 中 海 仁
II (地区)	第5学年	ネット型 「ソフトバレーボール」	延 岡 市 立 南 方 小 学 校 教 諭 田 中 大 希 教 諭 森 劍 志 郎

③ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名
指導助言者	南九州大学人間発達学部 教授 宮内 孝 宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 財津 吉正
司 会 者	宮崎市立国富小学校 教諭 安藝 良介
記 録 者	小林市立栗須小学校 教諭 山下 駿 高原町立後川内小学校 教諭 森 永 亜由美
進 行	新富町立上新田小学校 教諭 関 戸 映

④ 研究発表

研究発表題目	発 表 者
生涯にわたる心身の健康と豊かなスポーツライフ支える資質能力の育成を目指して ～思考力、判断力、表現力等を育む少人数体育学習～	日 之 影 町 立 宮 水 小 学 校 教 諭 渡 辺 智 彬
進行・司会者	椎葉村立不土野小学校 教諭 河野 要世
記 録 者	西都市立茶臼原小学校 教諭 横山 正文

研究発表題目	発 表 者
一人一人が進んで運動に親しみ、その楽しさを味わう体育科学習の在り方 ～ICTを活用した主体的・対話的で深い学びのある授業作りを通して～	えびの市立上江小学校 教 諭 串 間 洵 郎
進行・司会者	日向市立美々津小学校 講師 壺岐 直澄
記 録 者	国富町立森永小学校 教諭 新原 翼

研究発表題目	発 表 者
児童が思考・判断・表現しながら技能を向上させる授業の在り方 ～指導と評価の一体化を意識した授業改善を通して～	日南市立桜ヶ丘小学校 教 諭 黒 木 大 翔
進行・司会者	都城市立川東小学校 教諭 松山 拓磨
記 録 者	串間市立本城小学校 教諭 宇佐 季笑



# 令和7年度第66回 宮崎県学校体育研究大会

## 延岡地区 研究発表

### 延岡地区研究主題

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、  
豊かなスポーツライフ実現するとともに、  
継続するための資質・能力を育む体育科学習  
～児童一人一人の思考力、表現力、判断力等を  
養う授業の創造と展開～

延岡市小体連の研究主題は、宮崎県小体連の研究主題と同じものである。延岡市小体連では特に、「児童一人一人の思考力、表現力、判断力等を養う授業の創造と展開」を大切に研究を進めている。

### 研究内容

つながりのある学習

地区研究  
(ジグソー法を用いた体育科授業実践)

研究内容は「つながりのある学習」と「地区研究」の2つである。地区研究はさらに具体的には、「知識構成型ジグソー法」を用いた体育科授業実践についてである。

### つながりのある研究

(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

(3)共生の視点に立った指導内容の充実

つながりのある学習の研究には3つの柱がある。「(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化」「(2)『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業づくり」「(3)『共生の視点に立った指導内容の充実』である。

### (1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

#### ソフトバレーボール学習カード6時間目

ふり返り：(1)できなかった・2あまりできなかった・3まあまあ・4だいたいできた・5できた)  
・自分のチームの持ちようを生かした作戦を選べましたか？(1・2・3・4・5)  
・今日の授業は楽しかったですか？(1・2・3・4・5)  
・友達に前向きな言葉をかけたり、ハイタッチできましたか？(1・2・3・4・5)

ふり返り：(1)できなかった・2あまりできなかった・3まあまあ・4だいたいできた・5できた)  
・自分のチームの持ちようを生かした作戦を選べましたか？(1・2・3・4・5)  
・今日の授業は楽しかったですか？(1・2・3・4・5)  
・友達に前向きな言葉をかけたり、ハイタッチできましたか？(1・2・3・4・5)

評価計画と対応している

まず(1)の内容についての説明を行う。これは授業で使用するワークシートである。この下に、児童が振り返りをする欄があり、これは、あらかじめ作成された評価計画をもとに、それに対応した内容を児童が自己評価できるようにしている。そのため、毎回の教師による指導や評価だけでなく、児童が自己評価できるようになっており、指導と評価の一体化が図りやすくなると考えている。

**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

**ソフトバレーボール学習カード4時間目**

④ボールをつなぐためにはどんな作戦が有効か？

①ボールをつなぐポイントについて ( )

②分せき

- よかったところ: ( )
- もう少しのところ: ( )
- どんな練習をする?: ( )

より盛り: (1)できなかった・2あまりできなかった・3あまりあふれすぎていた・4だいたいできた・5できた)  
 ・実戦のようにボールの動き・作戦ができたか? (1・2・3・4・5)  
 ・今日の授業は楽しかったか? (1・2・3・4・5)  
 ・友達に仲良くな言葉をかけたか、ハイタッチできましたか? (1・2・3・4・5)

次に(2)についての説明を行う。デジタルワークシートに、授業のなかで見つかったポイントや、自分たちの良かったところやもう少しのところ、それを踏まえてどんな練習をするかなどを考えて書き留められるようにしている。

**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

つみかさねワークシート

そしてそれを毎回繰り返していくことで、自分たちのチームについての情報が集まってくる。これを「つみかさねワークシート」と名前を付け、実践している。

**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

毎時間、チームや自分の情報を言語化していきそれを積み重ねていく

↓

チームや自分の特徴を把握しやすくなる

つみかさねワークシート

**自分の身体との対話、仲間との対話の必要性が生まれ  
主体的な活動が期待できる**

この「つみかさねワークシート」によって、チームや自分についての様々な情報を積み重ねることができる。そうすることで、チームや自分の特徴を把握したり、自分の身体や仲間との対話の必要性が生まれ、主体的な活動につながるのではないかと考えている。

**(3)共生の視点に立った指導内容の充実**

**多** ルールや教具を工夫する実践

**課** 学級づくり

**課** 授業マネジメント

**誰もが運動を楽しむために土台の整備**

最後は、(3)共生の視点に立った指導内容の充実についての説明を行う。これまで共生の視点を意識した授業においては、ルールや教具を工夫する実践が多くなされてきた。しかし、学級づくりや授業マネジメントといった、授業をする上での土台の部分についての課題が挙げられることがあった。そこで、まずは誰もが楽しむための土台の整備が大切だと考えた。

**(3)共生の視点に立った指導内容の充実**

**みんなが楽しい体育の土台チェックシート**

**学習の勢い**      **場の雰囲気**

教師によるチェック

児童によるワークシートでの振り返り

**どの子どもも楽しめる授業の土台が作りやすくなる**

そこで、「みんなが楽しい体育の土台チェックシート」を作成した。これは、教師が学習の勢いと場の雰囲気という2つの視点から授業を振り返ることができるようになっている。それだけでなく、児童のワークシートの振り返り欄にもこのチェックシートに関する項目を入れており、授業づくりをするうえでどの子どもも楽しめる授業の土台をつくりやすくなると考えている。

<p><b>知識構成型ジグソー法とは？</b></p> <p>...グループ内で<b>役割分担</b>をして、調べ学習や話し合い等を行い<b>自分が学んできたことを教え合う学習法</b>。 ※詳細はお手元の資料を参照</p> <p><b>知識構成型ジグソー法の目的</b></p> <p>...<b>子供一人一人が自分の頭で考え</b>、仲間と考え等を交流し、<b>よりよい答えを作り出す</b>こと。</p>	<p>続いて、2つ目の研究内容である「地区研究」についての説明を行う。延岡市小体連が研究している「知識構成型ジグソー法」とは、グループ内で役割分担をして、調べ学習や話し合い等を行い、自分が学んできたことを教え合う学習法である。この学習法を用いる目的は、児童一人一人が自分で考え、仲間と考えを交流し、よりよい答えを作り出すことである。つまり、自分で思考したり仲間と思考したりしながら、自分たちの学習を自分たちで進めていくことを目指している。</p>						
<p><b>延岡市小体連の歩み</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">令和5年度</td> <td style="text-align: center;">器械運動 跳び箱運動 「かかえ込み跳び」</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和6年度</td> <td style="text-align: center;">ボール運動 ネット型 ソフトミニバレーボール</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">令和7年度 (本年度)</td> <td style="text-align: center;">ボール運動 ネット型 ソフトミニバレーボール</td> </tr> </table>	令和5年度	器械運動 跳び箱運動 「かかえ込み跳び」	令和6年度	ボール運動 ネット型 ソフトミニバレーボール	令和7年度 (本年度)	ボール運動 ネット型 ソフトミニバレーボール	<p>延岡市小体連のこれまでの知識構成型ジグソー法の研究についての歩みは、令和5年度に器械運動の跳び箱運動「かかえ込み跳び」で、令和6年度にボール運動のネット型「ソフトミニバレーボール」で、それぞれ知識構成型ジグソー法を用いた授業を行い研究を進めてきた。今年度は研究3年目となり、昨年度と同じ種目であるソフトミニバレーボールにおいて「知識構成型ジグソー法」を用いて授業を行う。</p>
令和5年度	器械運動 跳び箱運動 「かかえ込み跳び」						
令和6年度	ボール運動 ネット型 ソフトミニバレーボール						
令和7年度 (本年度)	ボール運動 ネット型 ソフトミニバレーボール						
<p><b>これまでの成果と課題</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力、判断力、表現力等を働かせていた</li> <li>・自己やチームの課題をもとに作戦を考えることができた</li> <li>・仲間との対話が生まれ、考えが深まっていた</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が考えた練習方法だと安全面への配慮が必要な場合がある</li> <li>・考える、対話する時間が多くなり運動量が減ってしまう</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力、判断力、表現力等を働かせていた</li> <li>・自己やチームの課題をもとに作戦を考えることができた</li> <li>・仲間との対話が生まれ、考えが深まっていた</li> </ul>	<p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が考えた練習方法だと安全面への配慮が必要な場合がある</li> <li>・考える、対話する時間が多くなり運動量が減ってしまう</li> </ul>	<p>昨年度までの研究で挙げられた成果と課題は多くあった。本年度は挙げられた成果は維持しつつ、課題を解決できるよう取り組む。具体的な取組は次の通りである。</p>				
<p style="text-align: center;">○</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思考力、判断力、表現力等を働かせていた</li> <li>・自己やチームの課題をもとに作戦を考えることができた</li> <li>・仲間との対話が生まれ、考えが深まっていた</li> </ul>	<p style="text-align: center;">△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が考えた練習方法だと安全面への配慮が必要な場合がある</li> <li>・考える、対話する時間が多くなり運動量が減ってしまう</li> </ul>						
<p><b>課題への対応策</b></p> <p>△安全面について</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>領域を「ボール運動系」に絞る</b></p> </div>	<p>1つ目は、領域をボール運動に絞るということである。跳び箱運動の授業では、児童が選んだ練習をする場面があったが、安全面の視点からの課題が出た。そこで、児童が練習方法を選んだ際にも安全に取り組めるよう、ボール運動に絞って知識構成型ジグソー法を用いる。</p>						
<p><b>課題への対応策</b></p> <p>△運動量の減少</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>体を動かしながらの対話の時間にする</b></p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p><b>エキスパート活動とジグソー活動の時間を分ける</b></p> </div>	<p>2つ目は、体を動かしながらの対話の時間にとこと、エキスパートグループとジグソー活動の時間を分けることである。「知識構成型ジグソー法」を用いた授業だと、どうしても話し合う時間や思考する時間が多くなるため、運動量の減少が課題として挙げられていた。そこで、それを解決するために、以上の2つを実施することで、運動量の確保を目指す。</p>						

## **ア 事前研究会からの変化(つながりのある学習)**

### **○ ゲーム(第4学年 ネット型ゲーム「ソフトバレーボール」)**

事前研究の段階で、「タイムマネジメント」と「運動量の確保」が課題として挙げられた。これらは相互に関係しており、タイムマネジメントが改善されれば、児童の運動量も向上すると考えた。

そこでまず、児童がすぐに運動に取りかかれるよう、場のレイアウトを工夫した。(各コートの近くにフープを置き、その中にボールを準備しておくなど。)

次に、児童を集めて話をする場面を「全体で集まる場面」と「ホームコートで話す場面」に分け、必要に応じて教師が使い分けられるようにした。この工夫により、説明や移動にかかる時間を短縮でき、運動量の確保につながった。

また、研究の取組である「つみかさねワークシート」の効果的な活用方法も課題として挙げられた。活用場面を①導入での前時のふり返し、②作戦を立てる際の思考支援、③終末でのふり返りの3つに位置付けて計画したが、②では児童が作戦を考えやすくなる資料の準備、③ではふり返しで意識させる視点の明示に改善の余地があることが分かった。

## **イ 視点に対する最終的な成果(つながりのある学習)**

### **○ 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

- ・ 指導計画と評価計画を作成したことで、見通しをもって指導を行うことができた。
- ・ 指導計画と評価計画をもとに、児童のワークシートの振り返り欄に本時の学習内容を児童が振り返ることができるようにした。そうすることで、教師からの評価だけでなく児童からの評価も行うことができ、授業改善につながった。

### **○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

- ・ ICTを活用し、毎回の授業で考えたことを書き留める「つみかさねワークシート」を活用したことで、自分や自分たちのチームについての情報を集めることが容易になった。それによって、自分やチームの特徴を把握しやすくなり、主体的に作戦を考えたりチームの仲間と対話しながらよりよいゲームにするための方法を考えたりすることができた。
- ・ 授業の導入で、前時の児童の「つみかさねワークシート」の記述を紹介したことで、学級全体の思考の深まりを促すことができた。

### **○ 共生の視点に立った指導内容の充実**

- ・ 「土台チェックシート」を活用したことで、教師から見た授業の勢いと雰囲気の評価することができ、次時に向けての授業づくりを行うことができた。
- ・ 児童のワークシートの振り返り欄にも「みんなが楽しい体育の土台チェックシート」に載っている評価項目を入れ、児童に自己評価させることで、教師だけでなく児童も授業の勢いと雰囲気をよいものにしようという意識をもつことができた。

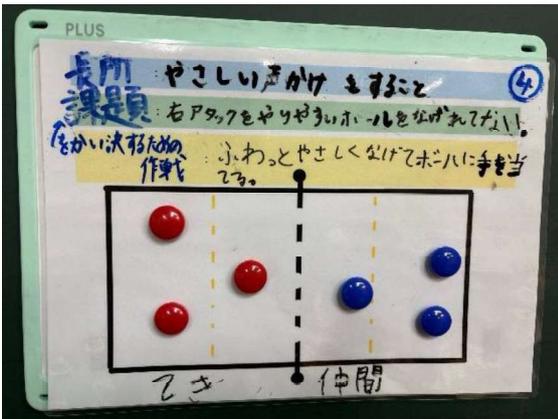
授業の様子(第4学年 ゲーム:ネット型ゲーム「ソフトバレーボール」)



スキル練習の様子



ゲームの様子



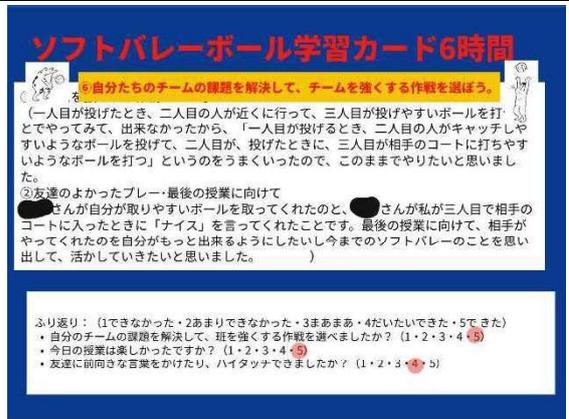
作戦ボードを用いた話し合い



作戦ボードを用いた話し合い



「つみかさねワークシート」集



「つみかさねワークシート」



振り返りの全体共有場面



チームでの話し合い

## ア 事前研究会からの変化(地区研究)

### ○ ボール運動(第5学年 ネット型「ソフトバレーボール」)

事前研究会では、キャッチ2回、3球目攻撃のルールについて検討がなされた。アタックを中心としたゲームである一方、レシーブのあり方や攻撃とレシーブのバランスについても考慮する必要があることから、キャッチ2回よりもキャッチ1回に設定し、レシーブをより意識させた方がよいのではないかという助言をいただいた。

そこで本番の授業では、キャッチ1回のみとするルールの下で行った。その結果、うまく機能したチームも見られたものの、個人差が大きく表れ、アタックに関する作戦を十分に意識できたかについては課題が残った。また、参観者からは、キャッチ2回のままでよいのではないかという意見も挙がった。

さらに、「知識構成型ジグソー法」を用いた授業を行うにあたり、教師として児童のどのような姿を期待するのかを事前に明確にしておくことの重要性が指摘された。チームで協力することを通して理解が深まり、できるようになり、仲間と連携し、さらには教え合う姿へとつながっていく学びの流れを大切にしながら児童一人一人の成長を丁寧に見取っていきたい。

加えて、深い学びにつなげていくためには、児童が選択したよい作戦を共有したり、よい作戦の見本を提示したりするなど、学びを価値づける場面、「知識構成型ジグソー法」でいう「クロストーク」を意図的に設定することが重要である。

また、エキスパート活動の内容の内容については、アンダーハンドパスやオーバーハンドパスといった成功例やよい点のみを扱うのではなく、失敗例も取り上げることで、失敗から学ぼうとする児童の姿が引き出されたのではないかと考えられる。

## イ 視点に対する最終的な成果(地区研究)

### ○ 児童の思考力、判断力、表現力等の育成のために、知識構成型ジグソー法は有効であったか。

- ・ 様々な視点からチームに必要な作戦を考え、練習し、練習の結果からどの作戦が自分のチームに合っているかを深く考えていたため、知識構成型ジグソー法は有効であった。
- ・ 児童が主体的に話し合いをしていた。
- ・ 全員が自分の考えを話す必要があるため、話し合いが活発になっていた。
- ・ 児童が自分の課題に向き合い、解決しようとする姿が見られた。
- ・ 話し合いや思考する場面も豊富にあったが、運動量も豊富にあり、過去の延岡市小体連の研究で挙げられた「運動量の減少」という課題を解決できていた。これは、エキスパート活動を前時までに行っておき、本時はジグソー活動から行うという流れにしたのがよかった。
- ・ 「知識構成型ジグソー法」を、1時間の中で完結させるのではなく複数時間に分けるという新しいかたちを見ることができ、体育科における「知識構成型ジグソー法」の可能性を感じた。
- ・ 児童の活動の中で危険な場面がなく、過去の延岡市小体連の研究で挙げられた安全性についての課題を解決できていた。
- ・ 前日に授業者が変わるというイレギュラーなことが起きたにもかかわらず児童の主体的な活動が見られ、チームに必要な作戦を様々な視点で考えていたため、「知識構成型ジグソー法」は有効であった。

授業の様子(第5学年 ボール運動:ネット型「ソフトバレーボール」)



エキスパート活動



ジグソー活動



選んだ作戦を練習する様子



ゲーム①の様子



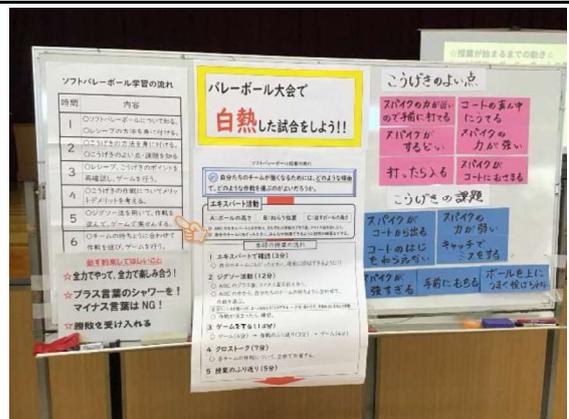
ゲーム②の様子



クロストーク



授業で活用した掲示物



授業で活用した掲示物

# 大会当日授業研究会について

## 小学校部会：ソフトバレーボール（4年・5年）

### 1 日程 12:55～14:45（110分）

時間	内容	授業者	助言者
12:55～	5分 ○ 紹介 ○ 会の流れの説明	着席	着席
13:00～	40分 授業研究会 「ゲーム：ソフトバレーボール」 13:00～13:45 「ボール運動：ソフトバレーボール」 13:45～14:25 授業Ⅰ「第4学年 ゲーム：ソフトバレーボール」（野中教諭） →評価規準を意識した振り返りの在り方は効果的であったか。 →「つまかさねワークシート」の作成と活用は効果的であったか。 →性別や能力差にかかわらず全員が運動を楽しんでいたか。 授業Ⅱ「第5学年 ボール運動：ソフトバレーボール」（田中教諭・森教諭） →授業の目標を達成するために、体育学習における「知識構成型ジグソー法」という学習形態を用いた授業づくりは有効であったか。	着席	着席
14:25～ 14:45	20分 指導講評（2名） ・宮内 孝 教授 （10分） ・財津 吉正 指導主事 （10分）	着席	着席

### 2 授業参観の視点

- 授業Ⅰつながり「第4学年 ゲーム：ソフトバレーボール」
- 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化  
→評価規準を意識した振り返りの在り方は効果的であったか。
  - 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり  
→「つまかさねワークシート」の作成と活用は効果的であったか。
  - 共生の視点に立った指導内容の充実  
→性別や能力差にかかわらず全員が運動を楽しんでいたか。
- 授業Ⅱ地区「第5学年 ボール運動：ソフトバレーボール」
- 授業の目標を達成するために、体育の学習における「知識構成型ジグソー法」という学習形態を用いた授業づくりは有効であったか。

### 3 授業研究会の進め方

※授業開始前に付箋紙を配付する。

○付箋紙へ授業参観の視点で記入をする。（主観を避け、事実を客観的に表現する。）

【青色の付箋紙】・・・『児童の良いところ』『教師の良いところ』

【赤色の付箋紙】・・・『児童の改善点』『教師の改善点』

【黄色の付箋紙】・・・『質問したい点』『疑問点』

- ① 授業参観時に、模造紙（学習指導過程拡大）に各色の付箋紙を貼り付ける。
- ② 研究部で、付箋を整理し、授業研究会までに内容を授業者に伝える。
- ③ 授業研究内で話題として取り上げる。

- ・1枚の付箋紙には一つのことを記入する。
- ・気付いたことは些細なことも含めてたくさん書く。
- ・簡潔に大きな文字で記入する。
- ・名前を記入する。

① 授業者は自身の授業について振り返りを述べる。

② 質疑応答  
→参加者からの質疑に対する応答及び黄色の付箋に書かれた内容等に答える。

③ つながり・地区それぞれの取り組みの有効性等を話題にしつつ、様々な角度から授業についての協議を行う。

## 小学校部会 授業研究会の記録（授業Ⅰ つながり）

### 授業者振り返り

延岡市立 東海小学校 野中 海仁 教諭

- ・ 自分たちで作戦を練り、動きが明確になっていた。話すきっかけにもなっていた。
- ・ 思考の回数と運動量のバランス、もう少し運動させたい。
- ・ 作戦を聞いている子は、学習になっていたのか。
- ・ 作戦を見せ合うなどの切り口も必要だったのでは。
- ・ 積み重ねワークシート（導入）前時の振り返りの課題から、本時のめあて・作戦を考えるための手立て、振り返りで活用できていたか。
- ・ ICT活用が4の作戦思考と選択の時の手助けになってほしい。
- ・ 土台チェックシートを教師もチェックしていたが、子ども達は活用できていたのか。
- ・ 情意面のアドバイスが多くなっていた。技能面のアドバイスも増やしていきたい。

### 質疑応答

Q ルール作りの中で気を付けていること、本時では、なぜキャッチの場面を選ばせたか。

A 基本ルールは、連続でさわらない。3回で返す。ネットにさわらない。風船を使って最初に行った。ビーチボールにかえると続かなかった。「どうすればラリーが続くのか。」の問いに対して、児童から「ワンバンを入れるとよい。」という意見が出て、取り入れた。また、1対1のやりとりになっていることもあって、キャッチを入れた。タイミングについては話していない。つなぐ作戦を考えるときに、子どもの方から2回目キャッチのことが出てきた。すると、ラリーが続くという実感があった様子が見られた。

Q 振り返りが次時にどうつながっていくか。

A 毎時間振り返りシートを書いている。めあてに対応したもので、本時のよかったところ、もうちょっと、なにがあったらもっとうまくなるか等の観点で行っている。また、本時の振り返りで、次時のバレー大会に向けて士気を高めてほしいと思っている。

Q ボールが2つあった意図は。

A 落ちてくるスピードの重さなどをもとに選んだ。子どもには特に説明せずに置いた。また、子どもの気付きから使うボールを選ばせていった。試合のときも選ばせた。

Q 作戦を立てさせる時に工夫したことは。

A 第4時間目につなぐ作戦を考えさせた。2, 3時間目におさえたポイントをもとに作戦を考えるように促した。落とす作戦は、繋ぐときの逆転的な発想で考えやすかった。

Q 課題に対する作戦は教師が想定していたものだったのか。

A 想定外のものもあった。例：6班は、ふわっとだけでなく、ネットと自分の間にあげるまで考えている児童もいた。課題と作戦がマッチしていない班もあった。させてみることが大事と思い、そのままさせた。

Q 作戦がどういうものをどのように共有したか。

A 4年生は、選ぶが目標。繋ぐポイントの部分で作戦の例示をして、イメージを膨らませた。技能面の作戦もあれば、情意面の作戦もあったので教えてもらいたい。

Q どのように児童とゴールイメージの共有していたのか。

A オリエンテーションの時に3年生の学習イメージがあった。映像を見て、「つなぐ」ということばがでてきた。どんなバレーを目指すかの問いに対して、みんなでさいごまで協力、楽しくつなぐ、などの言葉が出てきたため、単元の目標にも仲間とつなぐ、楽しくつなぐを入れた。高学年にもつなげていきたいと思った。

## 意見交換

- ・ どこでボールキャッチするかが定まっていることが必要。1人目がキャッチ、ふんわり返す、オーバーで返すとすると、どこに課題があるか気付きやすく、焦点化されやすいと思う。また、振り返りの中で、クラス全体の学びは何なのか、出てくると次時の課題に繋がるのでよい。
- ・ 攻撃・守備ともに高まっていき、良いと思う。実際に1回目キャッチしている班に質問している班もあり、子どもたちが実体験として「なんで2回目にキャッチするの?」という意見も出ていたので、もっと広げればよかった。
- ・ 1人目がネットから遠いところに返してしまっていた。1人目がネットの近くに返せれば、2人目キャッチとなるのでは。3段攻撃のよさのモデリングを見せる。ネットの近くからボールを上げる、ネットの遠くからボールを上げる2パターン見せて、子ども達に気付かせるとよい。
- ・ 後ろからのボールを打つ3人目が難しい。どうしても返せない場合の一手をモデリングするとよい。
- ・ 中学年ボール持たない時の動き、ボールの方に体を向ける。ボールが取りやすいけど、跳ばない。キャッチをもっとOKにしたり、何ができればよいのかを明確にして、ボール等も選んだりして、もっと内容的にゆっくりでもよかったのではないかな。
- ・ つみかさねワークシートについて、導入での価値づけがあり、子ども達が課題を見付けることが上手だと思った。また、子どもたちの振り返りを価値づけていたところもよかった。

## 小学校部会 授業研究会の記録（授業Ⅱ 地区研究）

### 授業者振り返り

延岡市立 南方小学校 森 剣志郎 教諭（田中 大希 教諭）

- ・エキスパートの資料を作る時間を前時に行った。
- ・日常的にジグソーを用いている。完全教科担任制を敷いている。
- ・ジグソー法は、子ども達の参加の意識が違ってよいと思った。
- ・普段から元気がよい。緊張しても一生懸命。
- ・初めは、まっすぐ上にあげるのも難しかった。少しずつゲームのようになっていった。
- ・チームの作戦を理解したゲーム展開をしていきたい。

### 質疑応答

- Q エキスパートについて。体育の学習では、どこで仕掛けるか、出しどころにポイントがある。なぜ、このタイミングでこの視点を取り扱ったのか。
- A これまでの研究で、思判表を伸ばすことを視点にしており、ジグソー法に力を入れている。その中で、ボール運動の思判表は作戦に関する事なので、この場面にした。
- Q キャッチあり、動くのもありで行った理由。
- A ルールについて、実態を見たときに、その場では難しいので、キャッチ、動くのもありにしている。今後ルールについては、実態を見て検討する。
- Q ジグソー法について。エキスパートにおいて、何を提示するかが大事な部分で、フェイント作戦、奥に落とす作戦、手前に落とす作戦などではなく、今回の作戦を選んだ理由を教えて欲しい。
- A 単純で分かりやすいから。ボールの高さ、狙う位置、返す強さの言葉だけで、簡単に作戦に取り入れられるから。
- Q エキスパートで話合う視点は「メリット、デメリット」という認識でよいか。
- A その認識でよい。
- Q ジグソー法は効果的だったか。
- A そう思う。どれかの視点が注目してしまいがちだが、3つの視点を共有したことで、自分のチームに合っているか、より深く検討することができるから。
- Q エキスパートで持ち帰ったものの話合わせ方で気をつけた部分を教えて欲しい。
- A エキスパートで話合ったことを、まず伝える。その上で、チームで話合って深め合っただけで作戦を選んでいく。実際には「もっと他のことができそう」という言葉が上がっており、内容の深まりが見られた。
- Q 前時のエキスパートにおいてどのくらいの子供たちが書けていたか。
- A エキスパートで話合ったグループで実際にやってみる。同じ視点の子がいることで、プラス面、マイナス面を仕上げていく流れ。理解が追いついていない子にもメリットがあった。本時は、現状を踏まえて、グループでやりながら深めていく。体を動かしながらやってみる。

Q エキスパートでこの3つの視点を選んだ理由は何か。(他にも視点がある中で)

A 単純で分かりやすいから。

Q 作戦を選んだあと、自分のチームの課題解決をして、共有もあるのかどうか。

A チームでできた課題と一緒に、よい点を伸ばす視点があった。今後、班同士の紹介をするのはよいと思う。

## 意見交換

- ・ エキスパートで仕入れた情報で、メリット、デメリットを話し合いながらしていた。班によっては、低いボールで強く打とうとする作戦で、上手くつながらずに、作戦が実行できていたか疑問が残った。キャッチ2回にして、確実にアタックできた方がよいのでは。
- ・ エキスパートでメリット、デメリットは、普通の話し合いでも出るはず。プレゼンできるぐらいまで持っていてもよいのでは。
- ・ ジグソー法は部分の知識を集めて、全部集まったら抽象化していくと理解している。集まったもので、全体像が見えるのか。使う必要があったかと思う。人をねらう、人がいないところを狙うなどもよいのでは。3つにとられすぎて、本来出べき作戦が出てこず、考えが広がりにくいのでは。

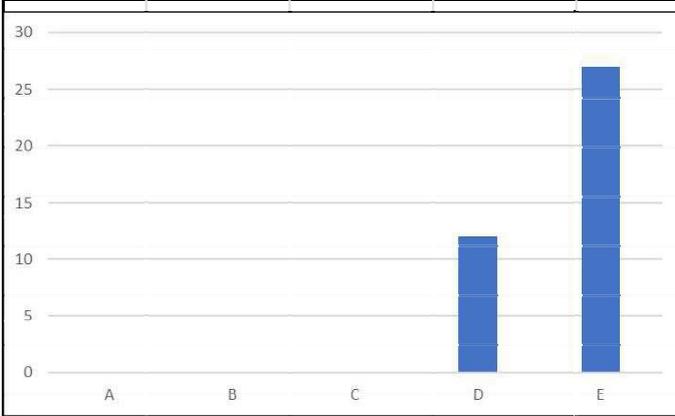
回答→ 3年前から取り組んでいる。全員が発言できるかという視点で見てもよいのでは。ジグソー法のよさもある。全体像が見えれば結果的によい。見えないと取り入れてはいけないというわけではないと思う。全員に意見を表出させるという点で効果的。

- ・ タブレットにメモしたり、「何ていえばよかったかな。」と相手に聞いたりする姿があった。ある班は、「上がらないから2回目にキャッチしたら。」としたら、次は、上手くいっていた。アタックをする視点ではなかったが、課題に向かって意見を伝え合う姿があった。
- ・ 今回のジグソーは1つに絞るのには違和感がある。すべて1つのプレーとして繋がっている。伝え方が大事。実際にやってみるとおもしろくなるのでは。人がいないところをねらう。でも、ルール（動くのあり）としたことで、スキがないという状況になっていた。作戦が上手くできなかった。少し考え方を改めてやっていたグループもあった。ネット型においての「リズムの崩し合い」的なおもしろさに少し欠けてしまうのではと思った。
- ・ 1つの班が、スパイク鋭くしよう作戦を採用。実際に強くしようというものになっていた。その中で状況を見ての判断で弱く打とうとする子どももいた。子ども達の中から出た発想で、強く打っても、弱く打ってもいいという手段を広げる声掛けがあってもいいかなと思った。
- ・ めあてを選ぼうではなくて、考えようにしてもよいのでは。ABCを踏まえて、自分たちのチームにはどんな作戦が必要かなという話をすると、もっとチームの特徴が出たと思う。

## 小学校部会 アンケート

### 【小学校部会】 アンケート集計結果（回答者39名）

■公開授業の内容は参考になりましたか。



A：参考にならなかった	0名
B	0名
C	0名
D	12名
E：非常に参考になった	27名

### ○ 特に参考になった点について

授業研究会における、教授・指導主事の指導助言、ポスターセッション

思考を促す体育科授業として、ジグソー学習を取り入れていることや児童が主体的に課題解決に取り組む姿勢を目指す学習規律や声かけ、単元計画が非常に参考になった。

知識構成型ジグソー法を用いた協調学習授業

授業の流れやジグソー学習の進め方について、授業に向けた基本的な規律

ジグソー法の効果的な活用について

ジグソー法はより高いレベルでも実施できる点について

ジグソー法を効果的に取り入れていた点や一人一人が運動を楽しむことができていた点が参考になりました。

体育科において協働的な学びを実現するための方法の1つとして、ジグソー法があること。

各地区の具体的な実践を学ぶことができ、ぜひ持ち帰って実践してみたいと思った。

また、単元の進め方について悩んでいたことがあったので、悩みが解決してよかった。

授業発表準備を入念に行ってきたことが実感できる素晴らしい授業でした。児童の成長を1番に考えており、先生方の熱心な思いが伝わりました。

授業内容をシンプルにして、複雑にならないように留意するという、宮内先生の話が参考になりました。

どちらの授業も雰囲気がとても良く、子どもたちが積極的に授業に参加していたのが、印象的だった。来年度は、西都児湯地区での開催なので、参考にさせていただきます。

自校でも勢いのある授業、肯定的な雰囲気づくりを実践していこうと思います。

デジタルワークシート、エキスパート活動

規則やルールの工夫の在り方については、工夫することも発達段階においては必要ではあるが、学習でねらっている子どもの姿を明確に描いたうえで決定する必要があると感じた。今回の授業では、子どもの問いが広がり過ぎていたように感じた。子どもの問いを焦点化する規則・ルールを考え、学習のゴールに迫る必要があると感じた。

○ 今後、研究を進めてほしい内容について

体育におけるひなたの学び
日南市が行っていた、体育科の教材シートについての研修を受けたい。
子どもの自己調整能力を向上させる、もしくは能力を生かした体育授業について
教科担任制を進めていく上での土台づくり(時間割作成、役割・担当分担など)
共生の視点
どんな内容でも勉強になります。
体育科における話し合い活動の取り入れ方
ウェルビーイング
大人数での指導方法などがあれば。
自由進度学習
指導と評価の一体化をどう児童に示すか
ネット型以外のゲーム

○ その他

毎年、「主体的」というワードが出てくるが、教師主導の受け身の学習の構えをさせている授業が多いように感じる。この主体的というワードについて、授業の根幹として再度確認する必要があるように感じた。
指導講評は大変学びが多く、2人の先生から話を聞く機会は大変ありがたい。授業者のよかったところを中心に話をしていただき、何がよいのかは参加者にも伝わったと思う。しかし、質疑や協議の中で出た意見についてはふれられることはなく、参加者としては、何がよくて何がおかしいのか等の疑問が解決されず、明日以降の授業づくりにつながっていないのではと感じた。
えびの市が発表していた、小学校体育連盟のクリーニング表やデジタル学習カードの共有。スポーツ庁からのものもあるが、タブレットからは見られなかったりする。地方ならではのロイロでの学習カードの参考になると思う。この許可を急いでほしい。県内の児童が見られるようにしてほしい。すばらしいものであった。

指導講評

指導助言者	内 容
<p>南九州大学 人間発達学部 宮内 孝 教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勢いと場の雰囲気を整っていなければ、いい授業ではない。それらを大事にしていた。</li> <li>・ 無駄な時間がなかった。ボール、タイムキーパーなどのマネジメントもよくできていた。</li> <li>・ 学習内容から課題を見つけて、解決に向かっていく。</li> <li>・ 見学者を学習者に据えていた。</li> </ul> <p>① バレーボールのゲームは、チームで連携をして、相手に意図的に返すことを目標とする。しかしながら、子どもたちの初期のゲームは、相手の失敗によって得点するゲームとなりがちで、このゲームから意図的に返球して相手に失敗させて得点するゲームに移行させたい。</p> <p>連携するということは、状況を判断しないとイケない。そのために、ボール操作に意識を向けなくても扱える、すなわち動きが自動化されていないとなかなか難しい。自動化されていないと、他者意識がもてない。だから、ボール操作をできるだけ簡単にして、まわりを見る余裕を作らせることでプレイの判断をしやすくしましょうという授業だった。作戦を立てて、実行するまでプレイが完結するまでにしなければならない。すなわちアタックまでプレイして失敗しても、それは良い失敗である。アタックまでいかないと、作戦が成功したかはわからない。だから、作戦が完結するようにいろんな工夫を教師がしかけることが必要である。例えば、三角形に広がってフォーメーションを組み立てて役割分担をする。とにかく返ってきたボールはセッター方向に上げるなどとすると、判断が分かりやすく、アタックまでプレイが完結する可能性が高くなる。</p> <p>② 子供が立てた作戦を教師がしっかり把握して評価しなければならない。そのためには、作戦が多様であると難しい。授業の最後に作戦を立てて、次の授業までに把握して、次の学習に参加させる。または、子ども達が作った作戦を類型化しておくことも大事である。作戦をシンプルにすることで指導しやすくなる。</p> <p>③ もっとゆっくり授業を仕組んだらどうか。例えば、本時を2時間扱いにする。次回、もう一度エキスパートをすると、本時を既習事項として捉え、本時の課題が解決するのではないか。</p>

指導助言者	内 容
宮崎県教育庁 スポーツ振興課 財津吉正 指導主事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイムマネジメントの部分で工夫改善がなされていた。</li> <li>① 系統性を踏まえた指導             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思判表、A 評価の児童はどのくらいいたか。A の児童は、高さのことを伝え、高いばかりだとばれるから、低いのと組み合わせるとよいと発言していた。</li> <li>・ 本時には、長所と課題を考えさせる場面があった。学習指導要領を踏まえると、特徴を「よさ」と捉えて、できていることに目を向けて活動をさせることが大切である。</li> </ul> </li> <li>② 主体的、対話的で深い学び             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元を通して、3つの力をバランスよく育成する。単元計画が大切。本時は、単元計画が分かりやすく提示されていた。これまでの学習の流れが明確であったから、教師が変わっても授業できた。その証明となった。めあてに対するまとめが大切である。</li> <li>・ 全体を集めて指導する場面でよさを共有し、価値付けされていた。何を子ども達に押さえたいのかを工夫していた。</li> <li>・ 児童自身が本時を振り返る場面が大切。振り返りワークシートを活用したことで、何を学ばせるのかが明確になる。また、作戦がうまくいかなかったことを振りかえさせることも重要になる。</li> </ul> </li> <li>③ 共生の視点             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3対3で全員がボールに触れる場面があった。どの子どもゲームに関わっていたことが素晴らしかった。</li> <li>・ 事前研では、ボール1個だったが、小さいボールがあったため、自分たちで考えて試す子どももいた。</li> <li>・ もともと、キャッチが2回あったが、本時の学習ではキャッチが1回になったため、子ども達が考えて動く場面が見られた。</li> <li>・ キャッチしたら動いていいよというルールに変化があったら、キャッチして何秒以内に動くなどの指示を入れていくとどのような変容が見られたらだろうか。</li> </ul> </li> </ul>

第66回宮崎県学校体育研究発表大会  
**中 学 校 部 会**

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日 程

10月17日 (金)	中 学 校 部 会	9:10	9:50	10:55	14:55	15:45			
		8:40	9:40	10:40	11:45	12:30	14:40	15:40	16:00
		受付	研究会 発表 開会 行事 視 点 説 明 (30分)	授 業 発 表 Ⅱ (各 部 会) (50分)	授 業 発 表 Ⅰ (つ な が り) (50分)	昼 休 準 食 憩 備	ワ ー ク シ ョ ッ プ 授 業 研 究 (130分)	各 地 区 研 究 発 表 (45分)	閉 会 行 事
会場： アスリートタウン延岡アリーナ サブアリーナ									

① 研究発表及び視点説明

活動報告及び研究発表題目	発表者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む保健体育科学習の在り方	宮崎県立宮崎西中学校 教諭 上妻 憲祐
(視点説明) 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	延岡県立北川中学校 教諭 原田 卓弥

② 授業発表

	学 年	単 元	発表者
I (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型：テニス)	延岡県立南中学校 教諭 前田 啓介
II (地区)	第2学年	体 育 理 論 (運動やスポーツの学び方)	延岡県立西階中学校 教諭 徳 淵 喬

③ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名	
指導助言者	宮崎大学教育学部	教授 日高 正博
	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事 甲斐 浩記
司会者	新富町立富田中学校	教諭 浮島 大介
記録者	小林市立三松中学校	教諭 岡上 桂
	宮崎市立大淀中学校	教諭 水元 竜太郎
進行	美郷北義務教育学校	教諭 佐藤 浩行

④ 地区研究発表

	【 地 区 】 研 究 発 表 題 目	発表者
1	【 日 向 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日向市立東郷学園 教諭 矢野 正道
2	【 宮 崎 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	宮崎大学教育学部附属中学校 教諭 實田 光貴
3	【 都 城 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	都城市立山之口中学校 教諭 鹿島 鉄平
4	【 南 那 珂 】 生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開	日南市立飫肥中学校 指導教諭 田中 美津子



**研究の方向性及び研究内容**

児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

「思考力、判断力、表現力等の実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

課題発見・解決を図るための効果的なICT活用

**(3) 共生の視点に立った指導内容の充実**

多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫

中学校部会における研究の方向性及び研究内容については、宮崎県学校体育研究発表大会に準じる形で同様に設定した。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

中学校

項目	評価	A	B	C
1	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
2	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
3	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
4	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
5	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
6	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
7	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。

学習指導要領例示をB評価としたときのA及びC評価の「実現状況を判断する目安」「具体的手立て」の作成  
 ↓ +α  
 実現状況を判断する目安に対応したワークシートの作成

(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化については「実現状況を判断する目安」の作成に取り組んだ。「実現状況を判断する目安」は学習指導要領解説の例示をB評価とし、AとC評価を設定した。それにプラスαする形で、C評価をB評価へ、B評価をA評価に引き上げるような生徒への具体的手立ても作成した。また、実現状況を判断する目安に対応したテニスの授業で使用するワークシートの作成も行った。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

「球技 第1学年及び第2学年における思考・判断・表現に関する評価規準表」

項目	評価	A	B	C
1	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
2	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
3	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
4	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
5	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
6	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
7	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。

**実現状況を判断する目安**

学習指導要領の例示をB評価とし、A評価とC評価を設定

**教師側の具体的な手立て**

C評価とB評価に対する手立てを設定

「実現状況を判断する目安」は青色で囲んでいる箇所、「具体的手立て」については、緑色で囲んでいる箇所に示している。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

「実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成

項目	評価	A	B	C
1	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
2	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
3	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
4	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
5	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
6	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。
7	○	動きのポイントやつまずきに対して、仲間との課題や出来映えをわかりやすく伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、仲間の課題や出来映えを伝えている。	動きのポイントやつまずきに対して、伝えているポイントや課題が仲間と共通し、わかるようになっている。

中学校

**作成する意義**

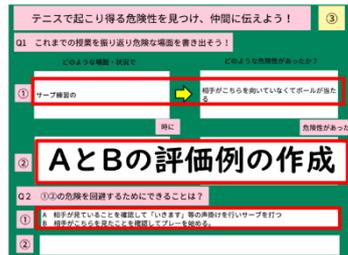
- ① 生徒の様子を素早く評価し学習の改善につながる
- ② 生徒のつまずきに対する手立てを素早く講じることができる

評価規準表を作成することで、①生徒の様子を素早く評価し学習の改善につながる、②生徒のつまずきに対する手立てを素早く講じることができるといった成果が上がった。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

項目	評価	内容
1	○	動きのポイントやつまづきに対して、仲間の課題や出来栄をわかりやすく伝えている。
2	○	提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを具体的に伝えている。
3	○	学習した安全上の留意点、他の学習場面に当てはめ、模範を示し仲間に伝えている。
4	○	練習で気づいたポイントやフィードバックなど、気づきや気づき、練習や状況などにより具体的な理由を添えて相手に伝えている。
5	○	協定する場面や学習した役割に応じた活動の仕方を見付け、工夫したことを具体的に仲間に伝えている。
6	○	話し合う場面や、提示された事柄の状況に基づいて、チームへの関わり方を模範を示して相手に伝えている。
7	○	様々な場面に配慮して、仲間とともに楽しむための練習や競争を行う方法を見付け、動き方等を具体的に仲間に伝えている。

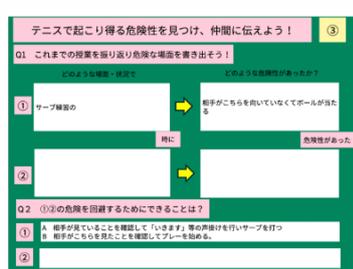
**実現状況を判断する目安に  
対応したワークシートの作成**



左に示しているのは、実現状況を判断する目安3番の項目に対応したテニスのワークシートである。ワークシートには、赤枠で示しているようにA評価とB評価の具体例を示し、教師が生徒の状況を的確に評価しやすくなるよう工夫を行った。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

**「実現状況を判断する目安」に対応した「ワークシート」の作成**



**作成する意義**

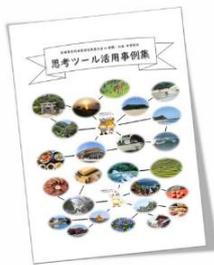
- ① 具体的な生徒の姿を明確にすることで指導に一貫性と深まりが生まれる
- ② 具体的な生徒の姿を明確にすることで評価の正確性や妥当性を高められる

これらを作成することで、①具体的な生徒の姿が明確になり、指導に一貫性と深まりが生まれること、②評価の正確性や妥当性を高められるといった成果が上がった。

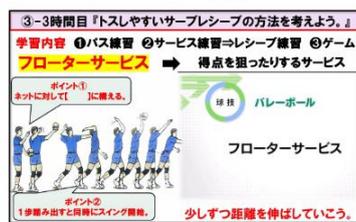
**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

**課題発見・解決を促すための効果的なICT活用**

R5思考ツール活用事例集



R6 デジタル学習カード



(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについては、これまで思考ツールの活用やデジタル学習カードに関する研究を行い、課題の解決を促すための手段としてのICT活用を進めてきた。これらの研究のつながりも考慮し、R7年度は「課題解決」に加えて「課題発見」に着目することとした。

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

**体育分野において**

**課題発見に着目したICT活用**

↓ 1人1人の課題が明確化



**課題解決型の授業展開が期待できるのでは？**

➡ 思考力、判断力、表現力等の育成

特に、課題発見に着目してICT機器等を活用することで、自己の課題が明確化され、その後の課題解決型の授業の充実に繋がると考えた。そして、課題解決型の授業の充実に繋がることで、習得した知識や技能をもとに新たな課題を見付け、解決していくような思考力、判断力、表現力等の育成に大きく寄与するものと考えている。

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

**課題発見・解決を図るための効果的なICT活用**

**課題発見のための視点表の作成**

準備姿勢

デジタル版



+

紙媒体



「課題発見・解決を図るための効果的なICT活用」として「課題発見のための視点表」の作成に取り組んだ。作成に当たっては、生徒がつまずきやすいポイントをピックアップし、課題を見付ける視点を絞り込めるよう工夫した。また、課題発見のための視点表については、デジタル版と紙媒体の2種類を作成した。

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

**課題発見のための視点表の作成**

準備姿勢



目的

動きや動きのポイントを視覚的に確認し、正しい動きをイメージさせる



目的

自他の動きを分析するために視点表として活用する

デジタル資料は、動きや動作のポイントを視覚的に確認し、正しい動きを具体的にイメージすることを目的としている。一方、紙媒体の資料は、撮影した映像を分析する際に活用することを目的としている。これらの資料を目的に応じて使い分け、生徒が課題をよりの確に発見できるように工夫した。

**(3) 共生の視点に立った指導内容の充実**

**多様な運動やスポーツの楽しみ方を共有することができる指導内容の工夫**

「する・みる・支える・知る」関わり方の視点

“誰もが楽しめる” ルールの工夫

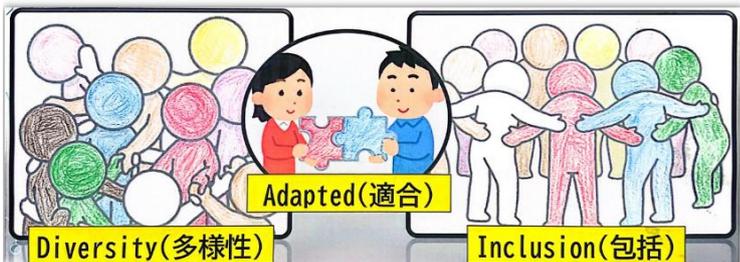
ひと・もの・ルール等

(3)共生の視点に立った指導内容の充実については、多様な運動やスポーツの楽しみ方を共有することができる指導内容の工夫を行った。「する・みる・支える・知る」という視点から指導内容を工夫することで生徒が多様な運動やスポーツの楽しみ方に触れるようにすることを目的としている。

**(3) 共生の視点に立った指導内容の充実**

**アダプテッド(Adapted)シートの作成と活用**

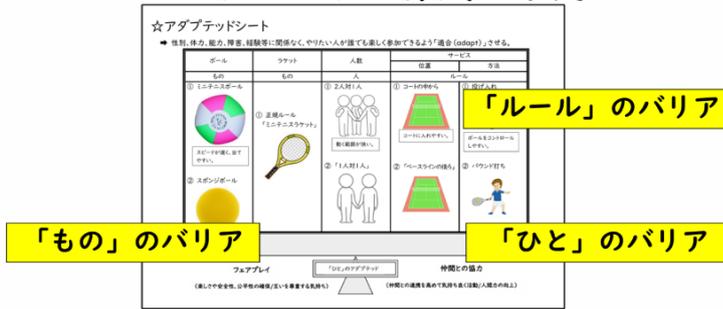
Diversity(多様性)を認めつつInclusion(包括)していく方法



そこで、Diversity(多様性)を認めながら、Inclusion(包括)を進める方法として、「Adapted(適合)」という言葉を用いて、Adapted スポーツから引用し、昨年度、西諸地区で作成されたアダプテッドシートを、テニス競技用に作成することにした。

**(3) 共生の視点に立った指導内容の充実**

**アダプテッドシートの作成と活用**



完成したアダプテッドシートは、テニス学習におけるルールの工夫一覧を、「ひと」「もの」「ルール」に分類し、選択できるようになっている。

**研究の方向性及び研究内容**

～児童生徒一人一人の  
 思考力、判断力、表現力等  
 を養う授業の創造と展開～

～体育理論と体育実技のつながりに着目して～

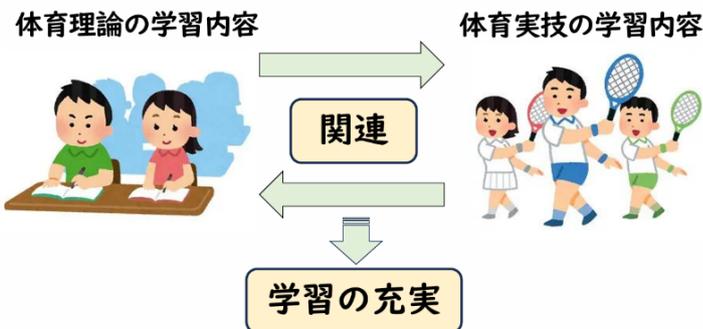
(1)指導と評価の一体化

(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

(3)共生の視点に立った指導内容の充実

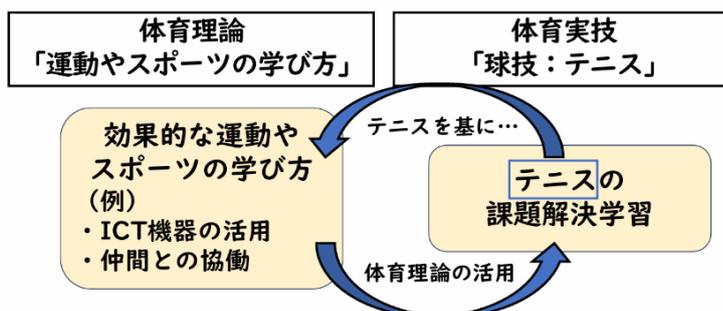
延岡・西臼杵地区の研究における研究の方向性及び研究内容については、県学校体育研究会に準じる形で設定をした。今回、本地区独自の副題を「体育理論と体育実技のつながりに着目して」と設定した。

**体育理論と体育実技のつながりに着目して** とは？



体育理論と体育実技の学習内容に関連させた授業づくりに取り組むことで、理論と実践の往還を図ることができ、学習の充実につながると考えたためこの副題を設定した。

**体育理論と体育実技のつながり** に関する研究の実際



授業発表では、体育理論と体育実技のつながりを意識して2つの授業を構成した。体育理論、運動やスポーツの学び方の授業では、実技で行っているテニスを適宜取り上げながら、効果的な運動やスポーツの学び方について学習を進めた。テニスの授業では、体育理論で学習した効果的な運動やスポーツの学び方を実践しながら、課題解決型の授業を実践した。このように、体育理論と体育実技のつながりに着目して地区の研究を行った。

<p><b>体育理論と体育実技のつながり</b> に関する研究の実際</p>	<p>単元構成としては、12時間で構成されたテニスの単元、6時間目の後に、「運動やスポーツの学び方」(体育理論)の授業を位置付けている。そして、体育理論で学習した「比較」「視覚」「感覚」といった「ひむかアプローチ」を、テニスにも活用し、理論と実践の往還による学びを目指している。</p>
<p><b>授業参観の視点</b></p> <p><b>生徒が課題を発見し、解決するための効果的な指導の工夫がなされていたか。</b></p>	<p><b>【授業参観の視点】</b> 生徒が課題を発見し、解決するための効果的な指導の工夫がなされていたか。</p>

## 研究の変容

### (1) 事前研究会からの変化

#### ① 体育分野 球技：ネット型(テニス)

##### 【事前研究会反省1】

本時のめあてを「課題に応じた練習方法を選ぼう」と本時のまとめ「動きを分析することで、課題に応じた練習を選ぶことができる」の整合性がとれていない。

- ・ 本時のめあてを「課題に応じた練習方法を選び、仲間に動きのポイントを伝えよう」、本時のまとめを「課題に応じた練習方法を選び、動きのポイントを仲間に対して分かりやすくアドバイスすることで、自他の動きの向上につながる」に変更した。

##### 【事前研究会反省2】

選択練習のメニューに「バックハンド」の練習が入っていたが、今回の授業の中心である「空いた場所への攻撃」との整合性がとれていない。

- ・ 「バックハンド」の練習から前に出てきた相手に活用する「ロブショット」に関する練習に変更した。

##### 【事前研究会反省3】

授業中の音楽が大きすぎて教師のフィードバックや生徒の歓声、アドバイス等がかき消されていたため音の大きさを考慮する必要がある。

- ・ 音楽の音量について再度検討し、本番を迎えた。

## ②体育理論 運動やスポーツの学び方

### 【事前研究会反省1】

本時の学習課題「自分自身に合った学び方を考えてみよう」と本時のまとめ「自分自身に合った学び方を考えることが大切である」の整合性がとれていない。

- ・ 本時の学習課題を「どうすれば運動やスポーツを効果的に学ぶことができるだろうか」、本時のまとめを「比較したり、視覚化したりすることで効果的に学ぶことができる」に変更した。

### 【事前研究会反省2】

授業内容がテニスの学び方に偏っていたため、「運動やスポーツの学び方」を主題とする授業として、学びを他の運動にも通じる形で一般化していく必要がある。

- ・ まとめの時間を多めに設定し、陸上や野球など他の競技の学び方にも触れさせることで、運動の学び方を一般化して捉えられるようにした。

### 【事前研究会反省3】

チームの課題に応じた練習方法を考案する際に、実際にボールを打って試す場を設けたが、こちらのねらいが十分に伝わらず、生徒はボールを打つことそのものを楽しみ姿が見られた。

- ・ 実際のボールは設置せず、軌道マスター（棒の先にボールがついた用具）のみを使用し、生徒が動きながらボールの軌道を示すことで、効果的な練習方法の検討に意識を集中できるように改善した。

## 研究の成果

- 生徒が課題を発見し、解決するための効果的な指導の工夫がなされていたか。
  - ・ テニスの授業において「課題発見のための視点表」を活用し、課題を見付けるポイントを絞り込んで指導した結果、生徒が個々の動きを分析しやすくなり、課題の的確な把握につながった。
  - ・ テニスの授業において共通の課題をもつ生徒同士で集まり、解決に向けて学習に取り組ませた結果、互いの考えを基に改善策を検討する対話が活発になり、学習の深まりが見られた。
  - ・ テニスの授業において、ミニテニス用のラケットやボールを活用したところ、ボールコントロールがしやすくなり「空いた場所をめぐる攻防」に思考を集中させることができた。
  - ・ 体育理論において、教室ではなく体育館のコート上で授業を行い、実際の立ち位置や用具を活用しながら課題に応じた練習方法を考案させた。その結果、生徒が動きのイメージを具体的にもつことができ、課題解決型の学習がより充実した。
  - ・ 体育理論「運動やスポーツの学び方」と体育実技「テニス」を関連付けて指導した結果、体育理論で学んだ内容を実践に生かしながら振り返る学習の往還が促進され、生徒の学びの充実につながった。

## 授業の様子

### (1) 第2学年 体育理論「運動やスポーツの学び方」



【授業者が班活動の際に助言をする様子】



【個人思考で考えたことを記入する様子】



【班活動の際にタブレットを使用している様子】



【軌道マスターを使って動きを確認している様子】

### (2) 第2学年 球技「テニス」



【授業者が課題練習について確認している様子】



【生徒が課題練習に取り組んでいる様子】



【タブレットで感想を記入している様子】



【授業の感想を発表している様子】

## ワークショップ型授業研究会について

### (1) 日程

時間	内容	担当	助言者
12:30(1)	○ 指導助言者及び各担当者紹介	進行	着席
12:31(6)	○ 授業者反省(3分×2名) ・ 延岡市立西階中学校 徳渕 喬 教諭(体育理論) ・ 延岡市立南中学校 前田 啓介 教諭(テニス)	授業者	着席
12:37(10)	○ 質疑・応答	司会	着席
12:47(3)	○ ワークショップ説明	研究部	着席
12:50(90)	○ ワークショップ 前半「体育理論:運動やスポーツの学び方」…12:50~13:30(40) 後半「球技:テニス」……………13:40~14:20(40)	研究部	周回
14:20(20)	○ 指導講評(10分×2名) ・ 宮崎大学教育学部 日高 正博 教授 ・ 宮崎県教育庁スポーツ振興課 甲斐 浩記 指導主事	進行	講評

### (2) 授業参観の視点

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

⇒ 生徒が課題を発見し、解決するための効果的な指導の工夫がなされていたか。

### (3) ワークショップの進め方

○ 授業開始前に付箋紙を配付する。授業参観の視点をもとに各色の付箋紙へ記入する。

( ①1枚の付箋紙に1つ記入する ②大きな文字で記入する ③記名を忘れない )

【青色の付箋紙】…『生徒の良いところ』『教師の良いところ』

【赤色の付箋紙】…『生徒の改善点』『教師の改善点』

【黄色の付箋紙】…『質問したい点』『疑問点』

① 授業参観時に、掲示してある黄色のプラ板に黄色の付箋紙を貼り付ける。

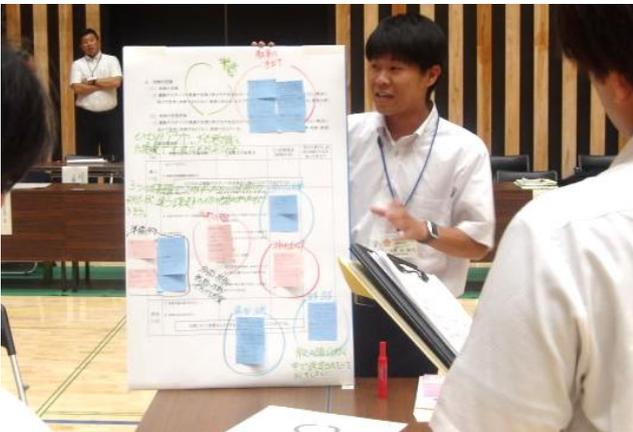
② 研究部員で、付箋を整理し、授業研究会までに内容を授業者に伝える。

③ 授業者は、その質問に沿って、応答する。

※ ワークショップ時に新たな質問点・疑問点が生じた場合は、黄色の付箋紙を活用する。



ワークショップ型授業研究会の様子



## 授業者振り返り（体育理論）

延岡市立 西階中学校 徳淵 喬 教諭

- 体育理論において、本来3時間想定の内容のものを4時間設定したことについて
  - 運動やスポーツの実践と理論をより密接に関連付けるため、意図的に1時間増設した。前時の授業でPDCAサイクルの基本的な考え方に触れており、本時ではその理解を踏まえて、より具体的で実践的な分析活動に取り組ませる計画のもと、授業を行った。
- 分析方法として用いた「ひむかアプローチ」について
  - 「ひ」は良い例と自分のプレーを比較する視点（ひかく）、「む」は自分の動きを動画で撮影し客観的に捉える視覚の活用（むーびー）、「か」は自分が感じたことや気付いたことを相手に伝える感覚の共有を意味する（かんかく）。この3つの視点を示すことで、生徒が課題に対する改善点を具体的に導き出せるよう工夫した。
- 「運動やスポーツの学び方」の一般化（本時のまとめ）について
  - 事前研究会での反省を踏まえ、テニスに限定せず多様な競技におけるアプローチ方法に触れ、他種目の分析の仕方を例に挙げながらまとめにつなげることができた。
- 生徒の協議方法について
  - 話し合いへの参加が難しい生徒もいることから、全員が自由に意見を書き込めるホワイトボード方式を採用し、話し合いの活性化を図った。また、書き込む色を生徒ごとに変えることで、個々の理解度や進捗状況を可視化し、指導上の手立てに生かすことができた。

## 質疑応答

	内容
質疑	体育理論と体育実技の違いについて、また体を動かすのであれば、準備運動は必要だったのでは？
応答	本時は、体育理論であり「技術や技能の向上を目的とする授業ではない」ことを踏まえて構成したため、準備運動は必要ないと判断した。
質疑	ひむかアプローチの「感覚」を指導する際のアドバイスには、どのようなものがありましたか？
応答	専門的に競技経験を有する生徒は、自身の感覚を比較的言語化しやすいことから、そうした生徒の発言を授業の核として生かすよう意識した。また、感覚のみを扱う学習活動を他の単元でも意図的に設定し、生徒が感じたことを言葉として表出しやすい学習環境づくりに取り組んだ。
質疑	6班に分かれて3つの課題が割り当てられていたが、その意図と班編成の仕方は？
応答	本授業では6班に分かれて3つの課題を扱った。課題の振り分けは、1つの課題に対して2班ずつ配置することで、最後の発表時に同じ課題を扱った班同士が意見を共有し、新たな視点に触れたり、考えをさらに深めたりできるよう意図したものである。班編成については、学級内のテニス部員3名を均等に各班に配置し、それ以外の生徒は均等になるよう機械的に分けた。

## 指導講評

宮崎大学教育学部 日高 正博 教授

- ・ 体育実技と体育理論の往還を明確に意識した授業構成が有効であった。特に、事前研究会での指摘や反省点が授業改善に的確に反映されていて良かった。
- ・ 「どうすればゲームに勝てるようになるのか？」という出発点で授業が展開されており、前時と本時の違いがどこにあるのかが気になった。
- ・ 本時は「運動やスポーツの学び方」を習得することをねらいとしているため、テニスでの学習をどのように他の運動領域へ一般化させるかが重要なポイントとなる。今回は、まとめの場面で他種目の例を教師が提示する形で一般化を図ろうとしていたが、むしろ生徒自身がテニスの学びを手がかりに、他種目にも通じる視点や学び方を見いだす活動を設定すると、より効果的であった。

- ・ 体育理論と体育実技の往還が図られた素晴らしい授業であった。
- ・ 本時の授業に関しては、「ひむかアプローチ」を使ってホワイトボードに書き出し、グループ協議後に共有をすることで、思考力、判断力、表現力等の目標達成に迫った授業であった。
- ・ 今回の授業のテーマは、「学び方を学ぶ」ことであるが、同じ課題をもつグループが発表し合う内容が練習方法であったことは、改善点として挙げられる。練習方法を見つけるためにどんな手立てを取る必要があるかを議論させることで「学び方」や「気付き方」への理解が深まると思う。

### 授業者振り返り（テニス）

延岡市立 南中学校 前田 啓介 教諭

- 本時の授業のねらいについて
  - 体育理論との関連を意識しつつ、「空いた空間をめぐる攻防」における自分自身の課題を発見し、それを解決していくことを授業のねらいとして設定していた。
- 「ひむかアプローチ」の分析について
  - ゲーム中に、仲間の動きを「ひむかアプローチ」に基づき分析する活動を取り入れたが、具体的な改善点やアドバイスにつながる部分が十分でない場面も見られ、今後検討の余地がある。

### 質疑応答

	内容
質疑	本授業では、ミニテニスを行っていたが、3年次にはソフトテニス本来の形に戻すのか？
応答	3年次にはソフトテニスに戻すことを予定している。小学校ではテニピンという教材があり、テニピンとソフトテニスの間の教材として今回ミニテニスを活用している。球技の「空いた空間をめぐる攻防」を目指す授業づくりにおいて、ミニテニスは非常に効果的であった。
質疑	体育実技と体育理論を融合させた効果やメリットとは？
応答	体育実技と体育理論を融合させることの効果として、今回はテニスを題材に行ったが、他の運動領域においても幅広く応用可能である点が挙げられる。また、実技と理論を関連付けることで、生徒ひとりひとりが自分自身の問いをもち、課題意識をもって主体的に取り組むことができる点が大きなメリットであると考えている。

### 指導講評

宮崎大学教育学部 日高 正博 教授

- ・ 生徒の課題意識を把握しつつ、その意識に寄り添った課題解決型の授業展開を行うことができていた。特に、課題に応じてグループを編成したことは有効であった。同一の課題を共有する生徒同士が集まることで、意見交換が自然と促進され、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた基盤となる学習形態が成立していたと言える。
- ・ 練習場面やゲーム場面において、活動を一時的に停止して重点事項を再度確認させるなど、きめ細やかな指導が行われていた。その結果、生徒は授業を通して一貫して課題意識をもって活動に取り組むことができていた。
- ・ テニスを簡易化した「ミニテニス」は、「テニピン」（小学校）と「ソフトテニス」（中学校）をつなぐ教材として位置付けられる。ラケットが短くなっていることやコートが狭くなっていることなどから個人的技術の困難さが軽減されており、このことが、生徒の意識を戦術的な技術へ焦点化させるうえで有効に機能していた。今後は、これら教材の相違点だけでなく共通する教育内容を整理し、ミニテニスをどの段階で適用することが最も効果的かについて、検討を深める必要がある。

- ・ ミニテニス教材化しアダプテッドの工夫を施したことで、技術的余裕や心の余裕が生まれ、生徒の戦術的思考が広がった。
- ・ 授業者の声掛けが的確であった。特にスキルアップトレーニングにおいて、定位置や準備姿勢だけでなくスペースの活用にも言及していた点が有効であった。その結果、生徒はスペースを意識しながら課題練習に取り組むことができていた。
- ・ 1・2年生の球技(ネット型)では、ラリーを続けることを重視し、空いた場所をめぐる攻防を展開することをねらいとしている。今回のような課題解決型の学習を通して、自身の課題だけでなく、ゲームを成立させるために求められる多様なプレーにも気付くことができる。
- ・ 宮崎県が推進する「ひなたの学び」(ひ:ひとりひとりが問いをもち、な:なかまとなって学び合い、た:たかめよう深く考える力)に即した学習の姿が、今回の授業で随所に見られた。

第66回宮崎県学校体育研究発表大会  
**高 等 学 校 部 会**

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む保健体育科学習～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日 程

11月7日 (金)	高 等 学 校 部 会	9:50	10:15	10:45	12:25	13:30	15:10	15:45	
		9:20	10:00	10:35	11:40	13:20	15:00	16:00	
		受付 (10分)	開会行事 (15分)	発表 教科研究委員会 (20分)	視点説明 (55分)	授業発表Ⅰ (つながり) (45分)	昼休準備 (55分)	授業発表Ⅱ (各部会) (90分)	ワーク 授業研究 授業研究 授業研究 (35分)
会場： 宮崎県立延岡星雲高等学校									

① 教科研究委員会発表

内 容	発 表 者
生徒の「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を育む手立ての工夫～思考ツール活用の在り方～	県立小林秀峰高等学校 教 諭 太田 聡 (県高体連 教科研究委員長)

② 視点説明

視 点 説 明	県立五ヶ瀬中等教育学校	教 諭 吉岡 奈津希
---------	-------------	------------

③ 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
Ⅰ (つながり)	第2学年	球 技 (ネット型：バドミントン)	県立延岡星雲高等学校 教 諭 近藤 伸哉
Ⅱ (地区)	第2学年	保 健 (医薬品の制度とその活用)	県立延岡星雲高等学校 教 諭 加藤 順也

④ ワークショップ型授業研究

役 職 名	氏 名
指導助言者	日本女子体育大学 教授 高橋 修一
司会者	県立妻高等学校 教諭 角田 太
コーディネーター	県立小林秀峰高等学校 教諭 太田 聡 県立高千穂高等学校 教諭 甲斐 奎佑
記録者	延岡学園高等学校 講師 楠元 龍水 県立延岡工業高等学校 教諭 山中 貴弘

⑤ 研究発表

	研 究 発 表 題 目	発 表 者
1	【西諸支部】 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに継続するための資質・能力を育む保健体育科学習～生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う球技ネット型の授業をとおして～	県立飯野高等学校 教 諭 都甲 尚寛
2	【宮崎・東諸支部】 ICTとシンキングツールを活用した授業の展開～「主体的・対話的で深い学び」を生み出す環境づくり～	宮崎学園高等学校 教 諭 溝口 政志
役 職 名	氏 名	
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課	指導主事 白石 剛二
司会者	県立妻高等学校	教 諭 角田 太
記録者	県立日向高等学校 県立門川高等学校	教 諭 濱田 悠暉 教 諭 寺田 勢哉



**宮崎県全体の研究主題**

生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習  
～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

今年度の県全体の研究主題である、「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習」、副題として「～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～」に準じる形で高等学校でも研究を進めてきた。

**研究の方向性及び研究内容**

児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

「思考力、判断力、表現力等の実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

課題発見・解決を図るための効果的なICT活用

**(3) 共生の視点に立った指導内容の充実**

多様な運動やスポーツの楽しみ方を仲間と共有することができる指導内容の工夫

高等学校では、(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化では、思考・判断・表現に関する評価規準表を作成し、系統性を踏まえた指導と評価の一体化を図る。(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりでは、ICT ツールである Canva を活用した「課題発見のための視点表」で、生徒自身が課題発見やそのポイントについて認識するための手段とする。(3)共生の視点に立った指導内容の充実では、体力や技能の程度、性別等に配慮して、仲間と共に楽しむためのルールや教具、声かけ等を工夫して、豊かなスポーツライフの実現につなげる指導を行う。として研究を行った。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

思考・判断・表現に関する評価規準表（入学年次の次の年次）

A評価	B評価への手立て	指導（役割）	C評価への手立て	C評価
自己学習やグループ学習に積極的に参加し、観察をしながら自ら見聞がつかぬかたがた積極的に意見を述べている。	聞き取り可能な発言が頻りに出ている。	話し手と聞き手との役割を分担し、話し手と聞き手とが互いに役割を担っている。	話し手や聞き手と役割を分担し、話し手や聞き手とが互いに役割を担っている。	話し手や聞き手と役割を分担し、話し手や聞き手とが互いに役割を担っている。

**実現状況を判断する目安**

学習指導要領の例示をB評価とし、A評価とC評価を設定

**教師側の具体的な手立て**

C評価とB評価に対する手立てを設定

(1)系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化については、研究紀要の18ページに入学年次の次の年次の思考・判断・表現に関する評価規準表が掲載されている。実現状況を判断する目安は、学習指導要領の例示をB評価とし、AとC評価を設定した。また、C評価をB評価へ、B評価をA評価に引き上げるような具体的な手立ても併せて作成した。

**(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

「実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成

評価	具体的な手立て	作成する意義
話し手や聞き手と役割を分担し、話し手や聞き手とが互いに役割を担っている。	話し手や聞き手と役割を分担し、話し手や聞き手とが互いに役割を担っている。	話し手や聞き手と役割を分担し、話し手や聞き手とが互いに役割を担っている。

**作成する意義**

- ① 生徒の様子を素早く評価し学習の改善につながる
- ② 生徒のつまづきに対する手立てを素早く講じることができる

評価規準表を作成することで、①生徒の様子を素早く評価し、生徒自身の学習の改善につながる、②生徒のつまづきに対する教師の手立てを素早く講じることができるといった成果が上がった。

**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

体育分野において

**課題発見**に着目したICT活用

一人一人の課題が明確化



**課題解決型**の授業展開が期待できるのでは？

思考力、判断力、表現力等の育成

(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりについては、課題発見に着目した ICT の活用に取り組んだ。課題発見に着目することで、自己の課題が明確化され、その後の課題解決型の授業の充実につながるものと考えた。そうすることで、習得した知識や技能をもとに新たな課題を見つけ、解決していくような思考力、判断力、表現力等の育成に大きく寄与することが期待される。

**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

**課題発見・解決**を図るための効果的なICT活用

課題発見のための視点表の作成

本人の課題	課題の予	目的	活用
キックミス	蹴り手を回していない	蹴り手を回す、蹴り足の軌道を確認している	蹴り手を回しているかどうかを確認している
アタリミス (顔)	上半身をまっすぐしていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している
アタリミス (サイド)	蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している
守備力、攻守両方	蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している
蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している

自分のフォームと比較してみよう

高等学校部会では課題発見・解決を図るための効果的な ICT 活用として、「課題発見のための視点表 (スキルチェックシート)」を ICT ツールである Canva を活用して作成した。作成にあたっては、生徒がつまずきやすいポイントをピックアップし、生徒自身が課題を見つける視点を絞り込めるように工夫した。

**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

課題発見のための視点表の作成

本人の課題	課題の予	目的	活用
キックミス	蹴り手を回していない	蹴り手を回す、蹴り足の軌道を確認している	蹴り手を回しているかどうかを確認している
アタリミス (顔)	上半身をまっすぐしていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している
アタリミス (サイド)	蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している
守備力、攻守両方	蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している
蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っていない	蹴り足の中心を正確に蹴っている	蹴り足の中心を正確に蹴っているかどうかを確認している

**目的**  
生徒自身が「何に注目すればよいか」がわかるようにする

授業者の視点をそのまま生徒に押しつけるのではなく、生徒自身が「何に注目すればよいか」がわかるようにすることを目的とし、今回は視点を①面の向き、②打点、③姿勢の3分類に整理した。ミスごとに「考えられる原因」や「チェックすべき点」も一覧で確認できるように工夫した。

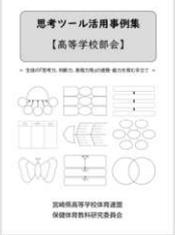
**(2)「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

課題発見のための視点表の作成

自分のフォームと比較してみよう

**目的**  
自他の動きを撮影した映像を分析する・動作の理解を深めるために活用する

自分の動画と手本動画を見比べるシートも作成した。自他の動きの映像を分析したり、動作の理解をより深めたりするために活用することを目的とした。これらの資料を活用することで、生徒が課題をよりの確に発見できるように工夫した。

<p><b>(3) 共生の視点に立った指導内容の充実</b>  <b>バドミントンの特性</b>  <b>☞ 性別や技能の程度の差が少ない</b></p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block; margin: 10px 0;"> <p>体力や技能等が 均等になるような グループ編成</p> </div> 	<p>(3) 共生の視点に立った指導内容の充実については、性別や技能の程度の差が少ないバドミントンの特性を活かして、男女共習のもと体力や技能等が均一になるようなグループ編成をおこなった。また、生徒の得意なスキルを活かすことができるようなルールの工夫を選択できるようにもした。</p>
<p><b>高体連県北支部が進める研究</b>  <b>保健・体育の授業における思考ツールの活用</b></p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>思考ツール活用事例集 【高等学校部会】</p>  </div> <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9c4;"> <p>生徒自らが課題を発見し、合理的かつ計画的に解決する過程を支援する</p> <p>資質・能力の育成を適切に評価し、学習評価の質的向上を図る</p> </div> </div>	<p>高体連県北支部が進める研究については、保健体育学習における思考力、判断力、表現力等を養うために、思考ツールを活用した授業実践に取り組んだ。思考ツールを活用した授業実践を通じ、生徒自らが課題を発見し、合理的かつ計画的に解決する過程を支援する教育方法の開発、およびこれらの資質・能力を適切に評価する具体的な評価方法を提示し、学習評価の質的向上を目指した。</p>
<p><b>研究成果と課題</b>  <b>(1) 成果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞ 生徒自身の考えを整理し、課題解決に向けて論理的に思考する能力の育成</li> <li>☞ 思考ツールを介した意見交換により、生徒の主体的な学習参加が促される</li> <li>☞ 記述された内容から生徒の思考過程を把握しやすくなり、より効果的な個別指導が可能</li> </ul>	<p>研究成果としては、①思考ツールを活用することで、生徒が自身の考えを整理し、課題解決に向けて論理的に思考する能力の育成につながったこと、②思考ツールを介した意見交換により、生徒の主体的な学習参加が促され、授業への関心・意欲の向上が見られたこと、③教員にとっても、思考ツールに記述された内容から生徒の思考過程を把握しやすくなり、より効果的な別指導や助言が可能になったこと、が挙げられる。</p>
<p><b>研究成果と課題</b>  <b>(2) 課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>☞ 思考を深めるような問いの設定</li> <li>☞ 個人での思考を深める時間やグループや全体で意見交換を行う時間などの工夫</li> </ul>	<p>課題としては、①思考ツールを有効に機能させるためには、思考を深める「問い」の設定が不可欠であること、②授業時間内で思考ツールの活用と意見交換を効果的に配分するための、単元計画や指導方法の更なる工夫が必要であること、などが挙げられた。</p>

## 研究の変容と研究の成果

授業発表（つながりのある研究）【球技（ネット型：バドミントン）】

宮崎県立延岡星雲高等学校 教諭 近藤 伸哉

### ア 事前研からの変化

- ウォーミングアップにおいて音楽を活用し、音楽の変化で、アップの内容を変化させられるような仕掛けを行った。また、タイムマネジメントについても音楽で行った。
- 本時の内容の説明では、ICTを活用し、視覚的かつ効率的に情報を伝えられるようにした。
- 課題発見のための視点表を活用し、あらかじめ内容の確認をさせておくことで、分析の把握を行わせた。また、実際に分析を行う際にも、視点表と見比べさせることで、分析内容の確認を行うことができていた。
- 分析を行うホワイトボードにも、見るべき視点等の情報を示すことで、生徒たちの分析作業がスムーズであった。
- ホワイトボードとネットに何のストロークの分析をしようとしているかを提示することで、生徒への声かけもしやすくなった。
- 全体的には運動量が少ないため、アップの中でゲームを行うなどして、活動量を増やすことも必要だと感じた。
- 分析すべき視点を明示していたため、その視点でのみの分析になった。見る視点がわかりやすいというメリットもあったが、あくまで参考として使うことも重要だと感じた。
- 2分間で分析タイムを設定していたが、分析して、ホワイトボードに書き込むというのが2分間では少し難しい生徒もいた。
- 授業最後の「今後のこういった練習が効果的か」という問いに生徒が止まってしまった。具体例を出したり、第二の発問を用意したりする必要があった。

### イ 視点に対する最終的な成果

- (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化【評価規準表の作成】

教員が評価規準を明確に持つことで、授業の目標や指導内容に一貫性が生まれ、教員間での共通理解も図りやすくなった。また指導と評価の一体化も実現しやすくなり、方向性がぶれずに、計画的に授業を進めることが可能になった。生徒に対しての具体的な手立てもあり、個々の生徒の状況に応じて適切に支援を行うことができ、授業全体の質を向上させることができた。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【視点表】

視点表を活用することで、生徒自身が課題を具体的に把握できるようになり、主体的に分析などの活動に取り組むことができた。また、見るべき視点が明らかになったことで、意見を伝え合う場面において、対話的な学びが促進され、課題解決に向けての学習活動がより活発に実施された。視点表については、クローズドスキルについて思考を深める良い教材となった。
- (3) 共生の視点に立った指導内容の充実【教具・教材（場やルール）の工夫】

体力や技能が均等になるようにグループ編成を行うことで、生徒同士での話し合いが、より活発に行われた。4人という少人数でのグループ編成のため、誰もが分け隔てなく意見を言うことができているように感じている。得意・苦手な生徒の両方がいるという状況が、どのように試合を行えば、誰もが楽しめることにつながるのか、実際に試合を行っていくなかでコミュニケーションを取りながらルールなどを考えていくことにつながっていた。

【授業の様子】



I C Tを活用した授業説明



視点表の確認



音楽に合わせてグループごとに W-up



シャトル投げ W-up



ストローク W-up



分析タイムの様子



Google フォームに入力



授業の振り返り

## 研究の変容と研究の成果

授業発表（地区研究）

【保健：（４）健康を支える環境づくり（ウ）保健・医療制度及び地域の保健・医療機関】

宮崎県立延岡星雲高等学校 教諭 加藤 順也

### ア 事前研からの変化

- 学習活動ごとにタイマーで時間を区切ることで、計画通りに授業を進めることができた。
- 発問の数を減らすことで考える時間が増え、グループワークでの対話も多く見られた。
- スライドごとにキーワードを絞ることで教えたい箇所が明確化され、視覚的に理解しやすい授業スライドを作成することができた。
- 知識の定着を図った学び直してデータチャートを活用したことにより、前時で学んだ知識の整理をおこなうことができた。
- 授業の展開でキャンディチャートを活用したことで、データチャートで整理した知識を元に話し合い活動を活発化させることができた。
- 生徒が行う知識の振り返りや話し合い活動に積極的に参加することで、新たな気づきに対してクラス全体で共有できるようになり、より深い学びに繋がった。
- ICTを活用してグループワークを行う場面では、個人の考えを記入する時間と話し合い活動をする時間に分けたことでメリハリが生まれ、活発的に話し合う場面が多く見られた。
- 授業の終わりに教科書を活用した振り返りや学び直しを行い、知識の定着を図ることができた。
- 班ごとの発表では内容に対して深掘りすることができなかった。
- 授業最後の発問に工夫が足りなかった。高校生でも自分事として捉えることができる発問にしてあげた方が良かった。
- データチャートに記入させながら知識の整理と振り返りをおこなったが、展開についてこれていない生徒もいたため、時間に余裕をもたせた計画にした方が良かった。
- グループ活動を進めるに当たって班内で役割を決めていた方が良かった。

### イ 視点に対する最終的な成果

【思考ツールを活用することでグループワークが促進し、対話的で深い学びに繋がったか】

本研究授業は、科目（保健）「（４）健康を支える環境づくり」（ウ）保健・医療制度及び地域の保健・医療機関）の単元で実施し、思考ツールを活用したことでグループワークが促進され対話的で深い学びに繋がったのではないかと考える。

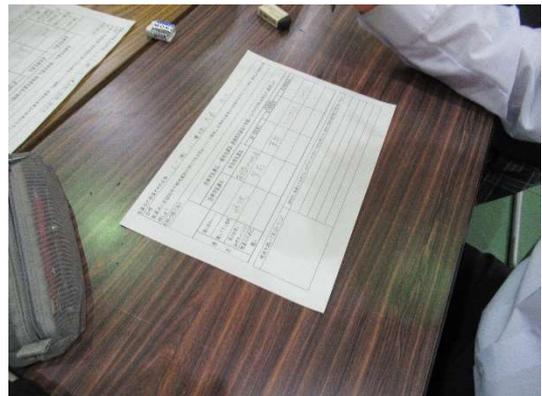
授業では、単元を通じて複数の思考ツールを効果的に導入した。⑦我が国の保健・医療制度の学習では「ベン図」を使用し、保健所と保健センターのサービスを比較・分類する作業を通じて、生徒間で活発な意見交換が生まれ、お互いの考えを共有しながら活動する姿が見られた。④地域の保健・医療機関の活用を考える学習では、「ピラミッドチャート」を用いたことで、集めた情報を重要度に応じて焦点化でき、質の高い議論に繋がったと感じた。単元のまとめでもある⑦医薬品の制度とその活用においては、「データチャート」と「キャンディチャート」を組み合わせる授業を行った。これにより、医薬品の知識を整理しながら、副作用や薬害といった事象について推理する深い学びに繋がりと、授業のまとめでは難しい発問に対してもさまざまな角度から物事を捉えて記入することができていた。

本研究から、思考ツールはグループワークに明確な枠組みと共通の視点を提供し、対話を建設的に促進することがわかった。これにより、生徒は他者の思考に触れて既存知識を再構築し、自力では得られない新たな気づきや発見を生み出すことができた。思考ツールの活用は、「対話的で深い学び」を実現する上で極めて重要な実践的要素であることがわかった。

【授業の様子】



I C Tを活用した授業説明



データチャートを活用した振り返り学習



キャンディチャートを活用した学習



キャンディチャートを活用したグループ学習①



キャンディチャートを活用したグループ学習②



キャンディチャートの全体共有



最後の発問について考える時間



授業の振り返り

# 高等学校部会

# ワークショップ型授業研究会について

## ■ 日程 13:30～15:00 (90分)

時間	内容		担当
13:30～ (2分)	指導助言者紹介		進行
13:32～ (6分)	授業者振り返り (3分×2名) [つながり] 県立延岡星雲高等学校 近藤 伸哉 教諭 [地区研究] 県立延岡星雲高等学校 加藤 順也 教諭		授業者
13:38～ (5分)	ワークショップ型授業研究会<説明>		コーディネーター 太田先生 甲斐先生
13:43～ (30分程度)	つながり (バドミントン) ・「授業参観の視点」についての研究協議 (模造紙+付箋)  教科研究委員 Canvaを使用した授業研究会	地区研究 (保健) ・「授業参観の視点」についての研究協議 (模造紙+付箋)	
	全体共有 ・3～4グループを選出して協議内容を発表 ・教科研究委員の協議内容を発表		
14:15～ (10分程度)	(休憩)		
14:25～ (10分)			
14:35～ (25分) ～15:00	指導講評 日本女子体育大学 高橋 修一 教授		指導助言者

## 2 授業参観の視点

つながり (バドミントン)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師側の思考・判断・表現に関する評価基準について</li> </ul> </li> <li>2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本技能における「課題発見のための視点表」の活用について</li> </ul> </li> <li>3 共生の視点に立った指導内容の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ バドミントンにおける共生、多様な楽しみ方を見つけるためのルールの工夫や、条件や空間の工夫について</li> </ul> </li> </ol>
地区研究 (保健)	思考ツールを活用することでグループワークが促進し、対話的で深い学びに繋がっていたか。

## 3 ワークショップの進め方

- (1) 各グループを6名程度で編成する。
- (2) 「授業参観の視点」についての意見を付箋に書き、模造紙に貼り付けてまとめる。

(※記入の際には、主観を避け、事実を客観的に表現すること)

■青色の付箋・・・『良かった点』(生徒・教師)

■赤色の付箋・・・『改善点』(生徒・教師)

■緑色の付箋・・・『建設的・発展的な意見』

※黄色の付箋・・・『質問したい点』『疑問点』は授業者振り返りで回答する。

- (3) 各グループの協議内容を全体発表する(コーディネーターが選出)。また、教科研究委員はCanvaを使用したワークショップを実施し、その内容を発表する。なお、発表時間は2分程度とする。

## 授業研究会の記録【つながり】

### 1. 授業者振り返り（つながり 近藤 伸哉 教諭）

- ・ 授業目標：「思考・判断・表現」の評価に重点を置き、「チームや自己の動きを分析し、良い点・修正点を指摘する」こと。
- ・ 方法：ICT教材（Canva）を活用し、思考・判断・表現に重きを置いた。
- ・ 課題：
  - 普段は活動的な生徒が多いが、今回は思考・判断・表現に重きを置いたため、「もっと動きたい」と感じた生徒もいた可能性がある。
  - 生徒は分析についてしっかりと考え、それを伝えることができていた。
  - 授業は時間通り進んだが、最後の Google フォームへの入力に時間がかかり、全体共有の時間が不足した。ホワイトボードでの共有で終了となった。
- ・ 今後の工夫：時間管理を徹底し、生徒がより楽しく体育に取り組めるような工夫をしたい。

### ○質問事項

- (1)単元2時間目の「スキルチェック」ではどのようなことを行なったか？
  - ⇒サービス（アンダーハンド）のスキルチェックを実施した。これを元にグルーピングを行い、最低2人はシャトルを上げられる生徒がグループにいるよう配慮した。
- (2)ウォーミングアップの準備運動は生徒が各班で考えたものでしょうか
  - ⇒いくつか案を提示したが、ほとんどの班が自分たちで考えた準備運動を実施していた。
- (3)課題練習は教師が提示した内容を選択するのか、それとも生徒同士で考えた練習なのか
  - ⇒生徒が考えた「より良くなる練習」を使いながら、教師側からもいくつか提案をする。生徒に、自分のスキル向上に最適な練習を選択させたり、考えたものを実施させたりする予定である。

### 2. グループ協議【○良い点 ●改善点 □建設的・発展的な意見】

グループ	主な意見
1	<input type="radio"/> 映像資料と撮影した動画を比較できる点がよかった。 <input checked="" type="radio"/> 評価の基準設定が高いと感じた。 <input checked="" type="radio"/> 教師の指導助言の時間を減らし、生徒の話合いの時間と活動を行う時間を増やした方が良かったと感じた。
2	<input type="checkbox"/> 技能レベルに応じたのルールを工夫を行う。 <input type="checkbox"/> 経験者（男子生徒）と未経験者（男子・女子生徒）2名で試合を行う。
3	<input type="checkbox"/> 生徒に新しいルールを作らせるなど、アイデアを出してもらうことで、より主体的に共生の視点で活動できるのではないか。
4	<input checked="" type="radio"/> 4/15時間目を考えた時に、視点表があることで、生徒は自己・他者評価がしやすい。 <input checked="" type="radio"/> 役割を作ったことで、自分では見つけられない点まで、課題が見つけられていた。 <input type="checkbox"/> 視点表に「シャトルの軌道」の視点を入れることで、さらに話し合いが行いやすくなるのではないか。
5	<input checked="" type="radio"/> グループに1人お手本が示せるスモールティーチャーがいたのは良かった。 <input type="checkbox"/> ゲームを通した課題発見ができるような「ゲームライクドリル」を行えば、よりスポーツが好きになるのではないか。

### 3. 指導助言者講評

日本女子体育大学 高橋 修一 教授

#### 1. 生徒の様子と場の設定

- ・生徒の態度：挨拶が素晴らしく、授業中も男女一緒に話し合うなど生徒同士の関係性が非常に良い。これは普段から先生方が適切にご指導されている賜物である。
- ・ネットの配置：ネットを全面に配置し、さらに真ん中に簡易的なネットを置くことで、全員が同時に練習できる場の工夫が素晴らしい。
- ・ウォーミングアップ：中学校・高校の思考力、判断力、表現力等には、種目に合った助け運動・準備運動を選ぶ項目があり、生徒がグループごとに自分たちに合った準備運動を選んでいる点は、学習指導要領に忠実に行われていることを示している。

#### 2. 指導のポイントと概念的知識

- ・見る視点の明確化：「良いところ・悪いところを指摘し合う」活動において、苦手な生徒は何を見れば良いかわからないことがある。本日の授業では、見る視点（例：面・打点・姿勢）を明確に示していた点が非常に良かった。
- ・具体と概念の往還：示された視点は、具体的な知識の習得には繋がるが、「何のためにやっているのか？」という概念的な知識（汎用的な知識）を意識させることがさらに重要。  
例：ネット型競技の楽しさ（相手がいないところを狙う、空間を作り出す）。そのために、どの状況でどの攻撃（例：スマッシュ、ドロップ）が効果的かを考えさせる。

#### 3. 思考力、判断力、表現力等の評価

- ・4つの項目：中学校・高校の思考力、判断力、表現力等の例示には「どうやったら上手くできるか」だけでなく、「どうやったら怪我をしないか」「どうやったら仲間と仲良くできるか」「将来的にどうやって関わっていくか」という4つの項目が含まれている。
- ・スポーツライフの継続：高校の目標は「豊かなスポーツライフの継続」。これは、20代、30代で運動実施率が下がる現状に対し、卒業後もスポーツに継続的に取り組める資質・能力を育てるためである。
- ・練習計画の考案：授業終盤の「練習計画の考案」で生徒が止まった点について。生徒が止まるのは、「難しすぎる」か「何をやって良いかわからない」状況である。先生がクリアできるような第2の発問や、答えのヒントを出す必要がある。
- ・評価とICT：Google フォーム等を使った入力が評価に直結するかどうかを精査する必要がある。ただし、ICTは成長記録（1年次から卒業時までの記録をフォルダに蓄積）として生徒に渡せる利点もある。ICTを使うかアナログにするかは、「より効果的に生徒の資質能力を育てるか」を基準に判断すべきである。
- ・共生（男女共習）：男女が楽しめるような「アダプテーションゲーム」（多様性の包摂等）の工夫が必要。例として、相撲の授業において大きなボールを挟んで押し合うなどの指導方法の工夫が紹介された。

## 授業研究会の記録【地区研究】

### 1. 授業者振り返り（つながり 加藤 順也 教諭）

- ・ 授業目標：「思考ツールを活用して、対話で良い学びに繋げる」こと。
- ・ 方法：ICT教材（Canva）を使用するタイミングを検討した結果、まず個人で考えを書き出し、その後、話し合いに移行する際にタブレットを数台に絞って活用させる形を取った。
- ・ 課題：
 

事前検討では全員がタブレットを使用したところ、入力に集中してしまい、話し合いがうまく進まなかったため、本時では活用方法を修正した。

「思考・判断・表現」の評価として、「生活の質の向上のために利用の仕方を整理している」という観点をどのように評価するかを課題と感じている。
- ・ 今後の工夫：先生方からの様々な意見を得て、ICTの新しい使い方や評価方法を確立したい。

#### ○質問事項

(1) 授業で活用した Canva を使いこなすのに、生徒にどのくらいの時間をかけたか？

⇒ Canva は毎時間使用している。文字の打ち方（選んで打つこと）と、使用上の注意（勝手に文字のデザインを変えないこと）のみを伝え、教える時間は特に設けていない。授業の中で、その都度必要な操作方法を指示した。

(2) 承認制度がないことによるメリッ的な意見に、前時で触れているのか？

⇒ 前時でも承認制度について触れた。コロナ禍でのワクチンの話に触れ、「特別承認」が使われたこと、それによりワクチンが早く届いたことを説明した。その説明を受け、生徒が「承認制度があることで新しい薬の登場が遅れる」と考えた可能性がある。

(3) キャンディチャートに書き込む際に、グループ間の意見交換があまり見られなかったが、狙いに即した取り組みになっていたか？

⇒ 「書き込む時間」と「まとめる時間」を分けたためである。書き込む時間は話し合いをせずに自分で考えたことを書き込むことを指示し、その後、まとめる段階でタブレットを絞り、全体で話し合いながら進める形を取った。今後、他の活用方法も挑戦したい。

### 2. グループ協議【○良い点 ●改善点 □建設的・発展的な意見】

グループ	主な意見
1	○ICT活用による可視化。○前時とのつながり。○学びの振り返りがあった。○問いの設定。 ●思考ツールの活用と、対話のバランス。 ●前時の振り返りも、ICTを使用する。 □グループの中で役割を作る。
2	○視点表の活用→どこを見ればよいかポイントが明確となり、分析しやすく、相手にも伝えやすい。 ●多点カメラで撮ったのが良い。→撮影者も分析や助言をすると良い。
3	○プレゼンテーションが工夫されていた。○思考ツールを可視化することで共有しやすい。 ●ICTツールの使い方に慣れていない。●全員が発言できていない。 □メリット、デメリットで色分けをして意見を整理することで、対話的で深い学びにつなげたい。

4	<p>○单元ごとの視点表があり、系統的な指導ができる。○評価基準にブレがなくなる。</p> <p>○アドバイスしやすくなり、話し合いが促進される。</p> <p>●役割分担次第で、もっと活用できたのではないか。</p> <p>□使う事が目的にならないようにする。</p>
5	<p>○少人数グループでの意見交換のしやすさ○先生の配慮と資料の工夫</p> <p>○生徒の反応が良かった。 ○チャートへの書き込み。</p> <p>●すべての班の考えが見てわかることがよかった。</p> <p>●他者意見の取り入れ方→グループ内の意見が反映されていたか？</p>

### 3. 指導助言者講評

日本女子体育大学 高橋 修一 教授

#### 1. 指導の姿勢と学習指導要領

- ・指導の姿勢：先生方が生徒の中に入って声かけをされていた点は非常に大切。研究授業であっても、指導案通りに進めるのではなく、生徒の状況を見て臨機応変に時間配分を変える姿勢が重要である。
- ・教科書の使用：「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」意識を持つべきである。本日の授業は学習指導要領の内容に沿った素晴らしい授業であった。

#### 2. 思考力、判断力、表現力等の評価項目

- ・複数の項目：保健の思考力、判断力、表現力等の例示には、課題発見、各項目（例：医薬品）、必要な情報の確認・分析、解決の方法と理由の説明という複数の項目が含まれている。
- ・単元構成：本日の単元（6時間）であれば、知識を扱う時間と、その知識に基づいて考えさせる時間を構成し、3つ程度の評価項目（例：課題発見、医薬品、理由を立てて説明）を盛り込むことが可能。

#### 3. 発問と概念的理解の徹底

- ・発問の工夫：最終的な発問「自分の生活に置き換えて書き出す」は、生徒が悩む可能性がある。より分かりやすく発問を工夫しつつ、最終的に抑えるべき概念に誘導する必要がある。
- ・最終概念：医薬品の利用を通して、「疾病の回復や防止のために適切に医薬品を使うことができる」という概念をしっかりと抑えることが重要。
- ・高校保健の特徴：高校の保健では、中学校との違いとして「社会」という言葉が出てくる。社会的な取り組みとしてどういうことが必要かという視点を入れないと、中学校と同じ授業になってしまう。
- ・意思決定と行動選択：保健が目指すのは、「適切な意思決定と行動選択」ができる力をつけることである。個人で考え、グループで対話的に検討した後、最終的にもう一度個人に戻す（個人の意思決定を尊重する）プロセスも大切。
- ・単元全体：本日は単元の6時間目であったため、単元全体の概念を改めて抑えるまとめが必要だった。

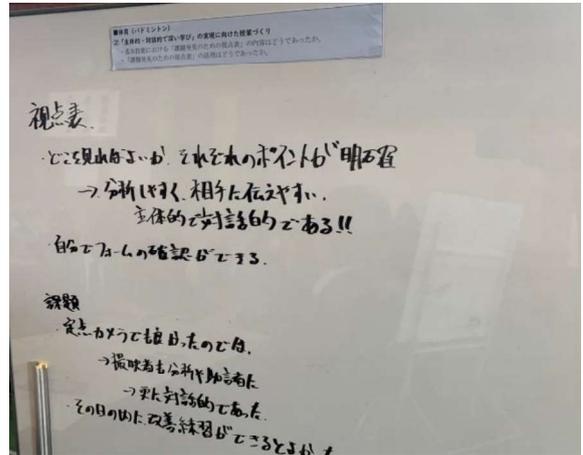
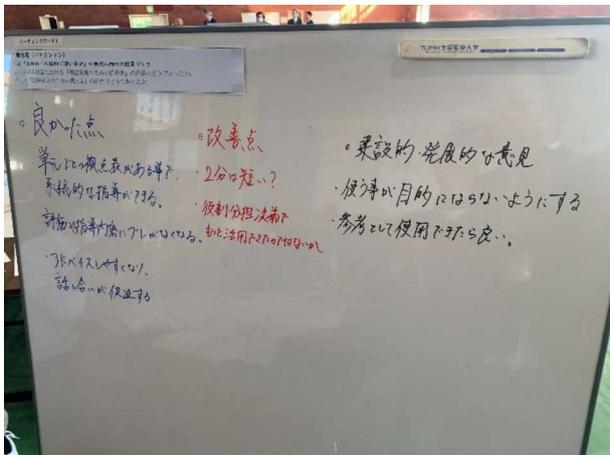
【授業研究会の様子】

会場の様子

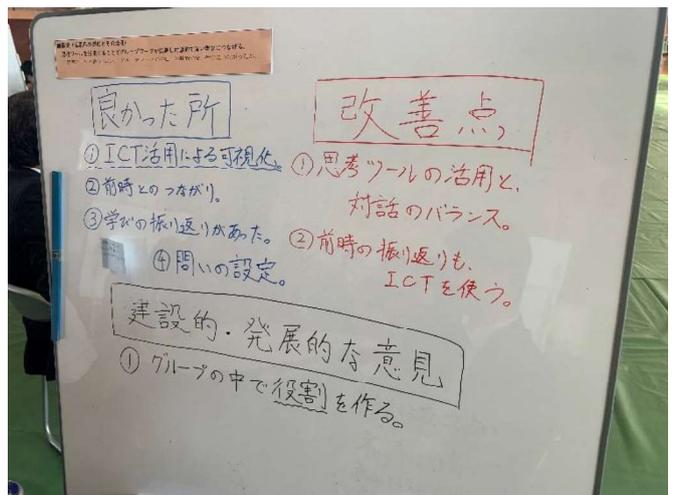
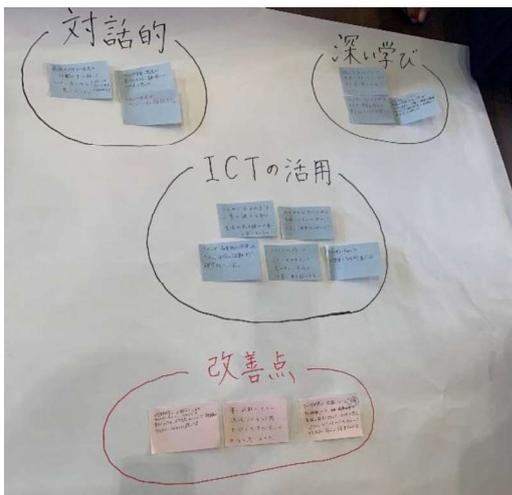


授業研究会の様子

■つながりのある学習



■地区研究



異なる年齢層、種目の参加者が様々な視点でアイデアを出すことにより、各学校でよりよい授業を展開するための工夫を共有する活動ができた。



第66回宮崎県学校体育研究発表大会

# 特別支援学校部会

1 研究主題 生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するとともに、継続するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方～児童生徒一人一人の思考力、判断力、表現力等を養う授業の創造と展開～

2 日 程

10月17日 (金)	特別支援学校部会	10:00	10:40	11:40	13:00	14:10	14:50	
		9:30	10:30	11:30	12:00	14:00	14:40	15:00
		受付	視点説明 開会行事 (30分)	授業発表Ⅰ (つながり) (50分)	授業研究会Ⅰ 研究発表協議 (20分)	昼休憩 準備	授業研究会Ⅱ ワークショップ 授業研究 (60分)	研究発表 (30分)
会場： 宮崎県立延岡しろやま支援学校								

① 視点説明

視 点 説 明	県立延岡しろやま支援学校	教 諭	金 田 健 吾
---------	--------------	-----	---------

② 授業発表

	学 年	単 元	発 表 者
I (つながり)	高等部	球 技 (バドミントン)	県立延岡しろやま支援学校 教 諭 上 野 航

③ 授業研究会Ⅰ・授業研究会Ⅱ

役 職 名	氏 名		
指導助言者	日本体育大学体育学部	准教授	村井敬太郎
担 当 者	県立清武せいりゅう支援学校	教 諭	長友啓輔
司 会 者	県立延岡しろやま支援学校	教 諭	伊東寿晃
記 録 者	県立延岡しろやま支援学校	教 諭	野田航平
	県立清武せいりゅう支援学校	教 諭	小松鉄平
進 行	県立みなみのかぜ支援学校	教 諭	檜木理美

④ 研究発表

活動報告及び研究発表題目	発 表 者
生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習～「ひなたの学び」を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりを目指して～	県立児湯るびなす支援学校 教 諭 坂田拓也
役 職 名	氏 名
指導助言者	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事 五十嵐 舞
進 行	県立みなみのかぜ支援学校 教 諭 檜木理美



**(I) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

指導	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
基礎	1. 1.1 基礎的知識の習得 2. 1.2 基礎的知識の習得							
発展	1. 1.1 基礎的知識の習得 2. 1.2 基礎的知識の習得							

「思考力,判断力,表現力等」  
についての  
実現状況を  
判断する目安  
の作成

(1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化では、指導要領の各段階の目標を基に「思考力,判断力,表現力等」について実現状況を判断する目安の作成に取り組んだ。「思考・判断・表現」について教師がしっかりと整理をして指導ができるよう、それぞれの目標を「思考」「判断」「表現」の3つに分けて記載し、それぞれについて目安を設定した。

**(I) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

指導	1年次		2年次		3年次		4年次	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
基礎	1. 1.1 基礎的知識の習得 2. 1.2 基礎的知識の習得							
発展	1. 1.1 基礎的知識の習得 2. 1.2 基礎的知識の習得							

「思考力,判断力,表現力等」  
についての  
実現状況を達成  
するための手立て  
の作成

手立てや工夫の例であり、教師の指導の一助となる、実現状況を判断する目安と関連付けた手立ての一覧表を作成した。

**(I) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化**

「実現状況を判断する目安」と「具体的な手立て」の作成



**作成する意義**

- ① それぞれの実態に合わせた適切な目標の設定及び評価をすることができる。
- ② 教師の授業改善、どの教師でも安定した授業づくりと適切な指導を行うことができる。

これらを作成する意義として、①それぞれの実態に合わせた適切な目標の設定及び評価をすることができる、②教師の授業改善、どの教師でも安定した授業づくりと適切な指導を行うことができる、の二つが挙げられる。

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

「主体的な学び」を実現するためのICT活用



「自己選択・自己決定」ができるための教材



(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりでは、本校生徒の実態を踏まえ、「主体的な学び」を実現するためにICTを効果的に活用し、「自己選択・自己決定」ができるための教材の作成に取り組んだ。タブレット端末に練習内容が画像や動画で提示され選択ができるようにし、自ら取り組みたい活動を選択できるようにした。

**(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり**

「自己選択・自己決定」ができるための教材



**作成する意義**

自分で取り組みたい活動を選択・決定することで、主体的に活動に取り組み、自ら新たな学びに向かおうとする力が高まる。また、自分に合った活動を行おうと思考・判断し、深い学びにつながる。

「自己選択・自己決定」ができるための教材を作成する意義として、自分で取り組みたい活動を選択し、実践することで、主体的に活動に取り組み、自ら新たな学びに向かおうとする力が高まる。また、自分に合った活動を行おうと思考・判断し、深い学びにつながると思う。

**(3) 共生の視点に立った指導内容の充実**

名前【 】

**アダプテッドシート**

※性別、年齢、体力、能力、障害、経験に関係なく、やりたい人が誰でも楽しく参加できるように「適合 (adapt)」させる。

シャトル	ラケット	人数	障害適合エリア	経験回数	サービス
① 赤丸	① テニスラケット	① 2人	① 赤丸	① 3回以内	① サービス
② テニスラケット	② テニスラケット	② 2人	② 赤丸	② 2回以内	② サービス
③ 正統ルール	③ 正統ルール	③ 正統ルール	③ 正統ルール	③ 正統ルール	③ 正統ルール

フェアプレイ (誰よりも安全性、公平性の確保/互いを尊重する気持ち)

「ひと」のアダプテッド (仲間との連携を高め、気持ちよく活動/人間関係の向上)

仲間との協力

(3) 共生の視点に立った指導内容の充実については、「わかる・できる」を実感するために、活動内容を仲間と共有することができるための支援方法を整理し、生徒が自己選択・自己決定をすることができるためのアダプテッドシートを作成した。

### (3) 共生の視点に立った指導内容の充実



#### 作成する意義

- ① 「できた」の経験が多くなり、運動の楽しさや達成感などから主体的な学習につながる。
- ② お互いの視点に立ったスポーツの楽しみ方を知り、共有する。



卒業後も「豊かなスポーツライフを实践する」ための第一歩

アダプテッドシートを作成する意義として、①「できた」の経験が多くなり、運動の楽しさや達成感などから主体的な学習につながる、②お互いの視点に立ったスポーツの楽しみ方を知り、共有することで、卒業後も体力や技能の程度、障がいの有無にかかわらず多様なスポーツの楽しみ方を考え、豊かなスポーツライフを实践していくための素地づくりになると考える。

### 研究・授業の視点

#### (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化



それぞれの実態に合わせた適切な目標や活動の設定と、評価ができているか。

#### (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり



主体的な学習につながる効果的なICT活用ができているか。

#### (3) 共生の視点に立った指導内容の充実



誰もが「できた」や「楽しい」を実感することができているか。

#### 研究・授業の視点

- ①それぞれの実態に合わせた適切な目標設定と評価ができているか。
- ②主体的な学習につながる効果的なICT活用ができているか。
- ③誰もが「できた」や「楽しい」を実感することができているか。

## ア 事前研究会からの変化

- ・ 事前研のコート設営から補強運動までの導入場面で、生徒たちも緊張からか静かな雰囲気であった。当日は生徒たちが好きなアーティストの曲（歌詞無し Ver.）を流し、モチベーションを高めた状態でコート設営から補強運動まで実施できるようにした。
- ・ 事前研では、デジタル学習カードにルビを振っていなかったが、当日はルビをふり、より学習内容の理解の定着を図ることができた。
- ・ アダプテッドシートを使ったシングルスでは、バドミントン部ではない生徒がバドミントン部の生徒に接戦の末勝利した。用具やルールを工夫することで、全員が楽しめる活動になった。
- ・ 振り返りの時間では、活動を簡単に振り返り、自己評価を行っていたが、当日は、「得点ゲームでは、なぜ、フラフープをその配置にしたのか。」「各ラリーゲームでは、なぜ、ラリーが続いたのか。」を問うことで、生徒たちがどのように思考、判断し、それらを表現することができたのかを生徒の言葉で聞き出すことができ、これまで以上に充実した振り返りとなった。
- ・ 不登校であった生徒が、チームのリーダーに立候補し、チームをまとめることができた。
- ・ バドミントン部の生徒が他の生徒に教える場面が多くみられた。その中で、左利きの生徒に教える際、自身が左手にラケットを持ち、教える困難さに気づくことができた。

## イ 視点に対する最終的な成果

### (1) 系統性を踏まえた指導内容の一層の充実、指導と評価の一体化

- ・ 小学部「ボール遊び」「ボールを使った運動やゲーム」、中学部・高等部「球技」における「思考力、判断力、表現力等について実現状況を判断する目安」を作成したことにより、小学部1段階から高等部2段階までの思考力、判断力、表現力等についての目標や指導の目安を一覧で確認することができ、教師が系統的な指導を意識しながら授業を構成することができた。また、T2、T3の教師とも指導内容の共有をし、共通の認識をもって授業を行い、評価までつなげることができた。

### (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

- ・ 生徒がタブレット端末を使用し、自ら課題を選択し取り組むことができる ICT の活用を行ったことで、自分やチームの課題に合わせた活動に取り組むことができ、主体的・対話的で深い学びにつながった。

### (3) 共生の視点に立った指導内容の充実

- ・ アダプテッドシートを作成し、活用したことで、バドミントン未経験者が経験者にシングルスの試合で勝つなど、多くの生徒が運動の楽しさや達成感を味わうことができた。また、アダプテッドシートを活用したことで自分自身について深く考える時間にもなり、卒業後にも必要な自己理解と共生社会の実現のために必要な力を考えるととても良い学習になった。

また、授業前のアンケートで「バドミントンは楽しいと思いますか？」に『はい』が81.3%だったのに対し、授業後のアンケートでは「バドミントンは楽しかったですか？」に『はい』が100%の回答だった。また、「運動は好きですか？」の質問に対し、授業前は「はい」が75%だったが、授業後は「はい」が100%になっていた。これらの結果により、アダプテッドシートが「誰もが『できた』や『楽しい』を実感することができる」ための教材の一つになったと考える。

○ 授業の様子



ウォーミングアップ①  
～自分たちで選択した活動～



ウォーミングアップ②  
～タブレット端末での選択画面～



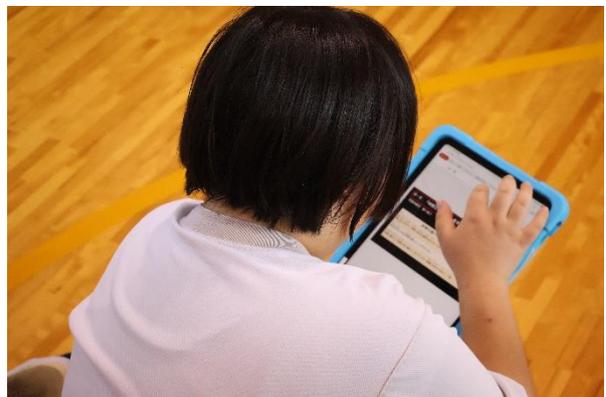
しろやまカップ①  
～チームごとの作戦会議の様子～



しろやまカップ②  
～風船ラリーの様子～



しろやまカップ③  
～アダプテッドシングルス～



まとめ  
～タブレット端末を用いた振り返り～

第66回宮崎県学校体育研究発表大会(延岡・西臼杵地区) 特別支援学校部会 記録

会 場:宮崎県立延岡しろやま支援学校

記録者:宮崎県立清武せいりゅう支援学校 小松 鉄平

**【授業研究】**

(1) 授業者反省(授業者:宮崎県立延岡しろやま支援学校 教諭 上野 航)

最初に

- ・ 体育館のコートは生徒が自分たちでテープを貼るなどして授業をつくりあげてきた。
- ・ 本日配布されている資料をメンテナンス部の生徒が印刷するなど関わってくれた。

授業者反省

- ・ コート設営をいつも自分たちで行っている。
- ・ 補強運動は前時に決めて、本時に行っている。
- ・ 前時のスライドの写真が多かった。枚数を減らすなどして生徒がイメージをしやすいようにしたい。(反省1)
- ・ 役割という言葉が分かりやすいように、追加で説明を行った。
- ・ 得点ゲームでは、フラフープの置く位置を話し合っていて決めていた。教師が学ぶ場面でもあった。
- ・ これまでの授業では体育館が暑くて扉を開けて活動していたが、本時は扉を閉めて活動しても良いかという生徒からの発信があり、工夫している様子が見られた。
- ・ シャトルラリーゲームでは、これまで種類の異なる2つのシャトルを使用していたが、本時はどのチームも普通のシャトルを使用した。
- ・ アダプテッドシートを使用したゲームを見せようと思ったが、競技に近いゲームになってしまった。(反省2)ただ、自分たちでゲームを行う人を決めるという生徒の主体性を尊重した。
- ・ これから続いていく授業の中でアダプテッドシートを使用して授業を行っていきたい。
- ・ 後ろのコートの試合では、バドミントン部ではない生徒が勝利した。
- ・ 振り返りでは、テレビモニターの使用ができなかった。用具の準備を丁寧になりたい。
- ・ タブレットで行う自己評価にある言葉を他者から仲間に変更したい。(反省3)

(2) 質疑・応答

発言者学校・氏名	質疑・応答	発言内容
赤江まつばら支援学校 平山教諭	質疑  応答	普段の授業でICT機器を活用しているか。  音楽科、美術科、保健体育科、職業科で活用している。 体育でのICT機器活用は、操作に時間がかかる、機器の不具合が起こることもあり、時間を取られることも多い。体を動かすことを大切にしているので、ICT機器ではなくアナログな教材を使うことも多い。
みやざき中央支援学校 黒木教諭	質疑	アダプテッドシートを活用することにより、どのように変容があったか教えて欲しい。

みやぎき中央支援学 校 山本教諭	応答	2回前の授業から作成、実践、改善をしてきた。 自分の楽しめるルールを大事にした。ラケットの変更、人数の変更を行うなどした。得点エリアの変更は理解するのが難しかったようだが、少しずつ理解が深まっていった。変更をすることにより勝敗を決定することもあった。バドミントン経験者ではない生徒がバドミントン部の生徒に勝つことや、ゲームが接戦になることも増えた。また、サーブの回数を増やすなど自分たちで追加のルールを提案することもあった。使用する意義を感じるがあった。
	質疑	昨年度から授業をして、生徒の変容があったことを教えてほしい。
	応答	コート設営、道具の準備について、できないからしないという考えや、面倒であるという姿もあった。少人数のチームを作ることで、それぞれに役割が与えられ、意識が変わっていった。また、卒業後を見据えることでも変わったのかもしれない。 バドミントンではサーブレシーブで終わるポイントが多かったが、ファミリーバドミントンのシャトルを使用したり、面積の広いラケットや短いラケットを使用したりするようになり、ラリーが続くようになった。

## 【ワークショップの各グループの発表】

### Aグループ

- ・ 自己選択、自己決定の機会が設けられていることや自分たちで得点があがるように工夫されたところが良かった。
- ・ 補強運動も自分たちで決められるようにされていて良かった。
- ・ 主体的に自分たちで動いていた。準備が終わっていないグループの手伝いができていた。
- ・ アダプテッドシートの活用は、共生の視点で大切だと思った。
- ・ 生徒がお互いを認め合っていたところが良かった。
- ・ 応援する姿、教え合う姿が良かった。また、それをしている生徒へ教師が言葉をかけていることも良かった。
- ・ 話していることを本当に理解できているか、アウトプットの場面があっても良かった。
- ・ 模造紙に書かれている内容が見えにくかったので、タブレットで撮影してモニターに映しても良かった。
- ・ 全体的に静かだったので、1つのコートで実践、審判、応援などに分けられると盛り上がったかもしれない。
- ・ チーム編成の基準、補強運動を選択した理由は何なのか、自他の課題に気づくための工夫はあったのか。

### Bグループ

- ・ ICT機器が生徒の主体的でスムーズな動きに繋がっていた。
- ・ コミュニケーション目的でビデオ撮影して、その振り返りを行うことで対話的な授業にもなったと思う。

- ・ アナログ、ICT の使い分けが大事だと思った。
- ・ しろやまカップで勝つことにどんな手段や方法があるのか。動画等で分かりやすく説明できると良かった。

#### C グループ

- ・ 準備、片付け、声かけ、自己選択、自己決定が多く良かった。
- ・ 自分の課題をどれだけ理解しているのか、疑問に思った。
- ・ デジタル学習カード、タブレットを活用しても良いと思った。
- ・ アダプテッドシートは生徒と一緒に作ったのか。ルールを工夫する基礎となり楽しむことは他の種目でも同じであり、生涯にわたるスポーツライフに繋がると思うので、自分たちもそのような授業をしたい。

#### E グループ

- ・ 自他の課題を発見できるのか、具体的にどのようにしているのか。
- ・ 振り返りにはどうしてタブレットを使用したのか、フィードバックする時間はあるのか。
- ・ 相手を取りやすくしたなど、試合では、取りにくい場所に打たないといけない。
- ・ 共生の視点として、全員で楽しく、アダプテッドシートを活用していたが、ラケットに当てるのが難しい生徒もいるがどのような工夫をしているのか。シングルスで勝った生徒はアダプテッドシートをどのように活用したのか。
- ・ これまでの授業で、知識・技能の向上はどのようにしていたのか。

#### D グループ

- ・ 目安が整理されていて良かった。
- ・ 自分たちで課題をどれだけ理解しているのか。
- ・ 思考する場面で教師がグループに入っていたが、なくても良かったのでは。
- ・ 道具の活用、ICT 機器の活用により生徒が主体的に動いていた。
- ・ 共生の視点で、全員が楽しめていた。
- ・ 話し合いで、リーダーシップを発揮している生徒がいた。
- ・ 生涯にわたって豊かなスポーツライフを考えると、水分補給や拍手など教師が言葉かけをしないでも良かったのではないかと。生徒ができないときにだけ言葉をかけるなど生徒の主体性を引き出しても良かった。

## 【ワークショップ 指導講評】 (指導助言者: 日本体育大学 村井 敬太郎 准教授)

- ・ 数年前、宮崎で素晴らしい授業をみて体育に力を入れていると感じた。言うことが何もなかった。今日の授業も素晴らしかった。
- ・ 指導案の留意点について、〇〇だから〇〇する。という書き方が良かった。
- ・ 3名の教師が余分な動きや言動がなかった。静かな授業に見えたのかもしれないが、教師が盛り上げる授業はなくて良いと思う。思考・判断・表現を目標にしている授業では淡々とした授業も必要である。
- ・ 体育では、知識・技能が大切にされてきた。しかし、現在では生徒が思考、判断をして決めることが大切になってきている。ただ、確認することは非常に難しい。目に見えないことなので、観察が大切である。

- ・ 思考・判断したことが表現できたのが重要であり、そこを評価することが必要である。ただ、表現することは難しい。記憶推理や認知など知的障がいの特性を知っておく必要がある。
- ・ 表出言語と理解言語は違う。獲得している言葉を知っておく必要がある。
- ・ 生徒は考えながら動いていたが、ぱっとみたことで判断してしまうこともあるが、踏み込んで考えることも大切である。
- ・ 生徒は丸暗記や決まった手続きになりがちである。踏み込んで考えると意外な答えも返ってくることもある。本授業では、先生も上手に質問されていた。大人は答えを想定することもあるが、大人も想定しない答えを引き出すようなことも大切である。
- ・ 言語で表現することが難しい場合は、動作や表情で評価をしないといけない。読み取りにくいこともあるが、そこに着目することも必要である。多くの職員に協力を求めて、観察することもあっては良いと思う。
- ・ シンプルな授業内容で深く考え、問う、考える場面を作ることが大切である。本時の生徒は特に、理解力、運動能力が高かった。
- ・ 指導案に目安、手立てがあり、とても良かった。
- ・ できないという評価ではなく、どうやってできていくのか目安を作るの大事になってくると思う。
- ・ 全体をとおして、よく練られていた。シンプルであり、運動量は少ないが、考えることで活動量としては充分にあったと思う。

**【研究協議・研究発表】**（発表者：宮崎県立児湯るびなす支援学校 教諭 坂田 拓也）

発言者学校・氏名	質疑・応答	発言内容
延岡しろやま支援学校 佐藤教諭	質疑	ダンスの授業を受けた後、校内、校外で自ら運動に取り組もうとする意欲はみられたのか。
	応答	これまでも高等部の生徒は走って体力づくりをしていたが、この授業後はダンスを家で踊るなどして体力づくりに取り組むことがあった。 「ひなたのちから」ダンスは振付を覚えており、音楽を流すと楽しく踊ることができている。

**【研究協議・研究発表】**（指導助言者：県教育庁スポーツ振興課 五十嵐 舞 指導主事）

- ・ るびなす支援学校では、校内研究で「児童生徒が自ら進んで活動する研究」をされている。今年度は、「地域への展開を見据えた研究」を実践されているので、体育の授業でも家庭や地域との連携した取組をされてもいいと思う。
- ・ 特別支援学校の強みは、小・中・高の12年間を見ることができることである。どのように成長しているのか、次年度はどうすれば良いのかを考えてほしい。実態を把握して授業を組み立ててほしい。
- ・ 県では、「ひなたの学び」を推進している。「ひなたの学び」は、学習指導要領の主体的、対話的で深い学びを授業で実践するために、県が分かりやすい言葉で示したものである。
- ・ 各学校において、個別の指導計画を共通理解する時間を大切にしてほしい。
- ・ 「主体的な学び」については、児童生徒が自分から動きたくなる環境作りだと考えている。「これならでき

る、やってみたい」という環境をつくる。そのために、音、リズム、映像、道具の工夫が大事になってくる。感覚的に楽しめるようにしてほしい。

- ・ 「対話的な学び」については、話し合い活動だけでなく、道具やルールを通しての対話もある。対話の中には、他者だけではなく自分自身との対話も入る。子ども達がどうやって向き合ったのかを観察することが大切である。ICTの活用は、目標を達成するための手段として、効果的に活用してほしい。
- ・ 「深い学び」については、ダンスで考えると、自分たちの動きを撮る、振り返って次にどうするかを再構成することも思考が深まると思う。
- ・ 目標を明確にすることや、授業に入っている先生方との連携、評価をどこでするかの共通理解が大切である。
- ・ 授業では自分の引き出しをたくさんもつことが大事になると思う。研修センターが実施している幼児児童の遊び等の研修は特別支援学校の先生方に来て、参加してほしい。授業の引き出しが増えると思う。

### ○ ワークショップ、研究協議等の様子



ワークショップ①  
～協議の様子～



ワークショップ②  
～発表の様子～



研究発表  
～質疑応答～



体育館前方  
～生徒たちが作ったチームごとの横断幕～

## 第66回宮崎県学校体育研究発表大会 大会役員

役職名	氏名	職名
名誉会長	吉村達也	宮崎県教育委員会 教育長
名誉副会長	柏田学	宮崎県教育委員会 副教育長
〃	吉玉拓	宮崎県教育委員会 教育次長
〃	田中幸一	宮崎県教育委員会 教育次長
〃	高森賢一	延岡市教育委員会 教育長
〃	戸敷二郎	高千穂町教育委員会 教育長
〃	橋本範憲	日之影町教育委員会 教育長
〃	津奈木考嗣	五ヶ瀬町教育委員会 教育長
会長	木宮浩二	宮崎県学校体育研究会 会長
副会長	田中裕久	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長
〃	長尾岳彦	宮崎県学校体育研究会 副会長
〃	谷口行孝	宮崎県学校体育研究会 副会長
〃	山腰美穂子	宮崎県学校体育研究会 副会長
〃	安在康喜	地区実行委員会 会長
顧問	重盛文人	宮崎県教育庁北部教育事務所 所長
〃	岩切隆人	延岡市教育委員会 学校教育課長
〃	湯川哲	高千穂町教育委員会 教育総務課長
〃	平川誠二	日之影町教育委員会 教育次長
〃	垣内広好	五ヶ瀬町教育委員会 教育次長
〃	山本敏	地区実行委員会 副会長
〃	松浦俊二	地区実行委員会 副会長
〃	西田浩司	地区実行委員会 副会長
〃	鬼束美和	地区実行委員会 副会長
〃	肱岡憲吾	地区実行委員会 副会長
〃	阿部泰宏	小学校部会会場校 校長
〃	木村淳子	小学校部会発表校 校長
〃	菊池みどり	中学校部会発表校 校長
〃	安在康喜	中学校部会発表校 校長
〃	柳井健二	高等学校部会会場校 校長
〃	肱岡憲吾	特別支援学校部会会場校 校長
参与	酒井宏幸	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長補佐
〃	齋賀哲也	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長補佐
〃	松下修士	宮崎県教育庁北部教育事務所 教育推進課長
委員長	有水浩智	宮崎県学校体育研究会 理事長
副委員長	児玉健	宮崎県教育庁スポーツ振興課 副主幹(学校体育担当)
〃	年永健二	宮崎県学校体育研究会 副理事長
〃	前田浩司	宮崎県学校体育研究会 副理事長
〃	門村裕香	宮崎県学校体育研究会 副理事長
〃	大久保高広	地区実行委員会 委員長

役職名	氏名	職名
委員	財津吉正	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	甲斐浩記	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	白石剛二	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	五十嵐舞	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事
〃	黒木章宏	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 副主幹
〃	水尾彰太	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事
〃	田爪鉄平	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事
〃	池袋豊	宮崎県教育庁北部教育事務所 指導主事
〃	安保隆昭	延岡市教育委員会 指導主事
〃	大石彰	高千穂町教育委員会 主幹
〃	奈須康浩	日之影町教育委員会 指導主事
〃	堀川貴史	五ヶ瀬町教育委員会 指導主事
〃	安藝良介	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	上妻憲祐	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	佐久間英二	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	長友啓輔	宮崎県学校体育研究会 理事
〃	永野佳太	地区実行委員会 副委員長
〃	樋口純平	地区実行委員会 副委員長
〃	柿木龍馬	地区実行委員会 副委員長
〃	久保真由美	地区実行委員会 副委員長
〃	伊東寿晃	地区実行委員会 副委員長
〃	原田卓弥	地区実行委員会 委員
〃	藤井航平	地区実行委員会 委員
〃	渡辺智彬	地区実行委員会 委員
〃	梅垣仁志	地区実行委員会 委員
〃	吉岡奈津希	地区実行委員会 委員
〃	金田健吾	地区実行委員会 委員
〃	野中海仁	地区実行委員会 委員
〃	田中大希	地区実行委員会 委員
〃	前田啓介	地区実行委員会 委員
〃	徳渕喬	地区実行委員会 委員
〃	近藤伸哉	地区実行委員会 委員
〃	加藤順也	地区実行委員会 委員
〃	上野航	地区実行委員会 委員
〃	(佐久間英二)	宮崎県学校体育研究会 事務局

## 第66回宮崎県学校体育研究発表大会 県実行委員会委員

役職名	氏名	職名	所 属
委員長	木宮浩二	宮崎県学校体育研究会 会長	宮崎県立日南振徳高等学校
副委員長	田中裕久	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長	宮崎県教育委員会
〃	重盛文人	宮崎県教育庁北部教育事務所 所長	北部教育事務所
〃	長尾岳彦	宮崎県学校体育研究会 副会長	宮崎市立赤江小学校
〃	谷口行孝	宮崎県学校体育研究会 副会長	宮崎市立赤江中学校
〃	山腰美穂子	宮崎県学校体育研究会 副会長	宮崎県立みなみのかぜ支援学校
委員	齋賀哲也	宮崎県教育庁スポーツ振興課 課長補佐	宮崎県教育委員会
〃	児玉健	宮崎県教育庁スポーツ振興課 副主幹(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	財津吉正	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	甲斐浩記	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	白石剛二	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	五十嵐舞	宮崎県教育庁スポーツ振興課 指導主事(学校体育担当)	宮崎県教育委員会
〃	黒木章宏	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 副主幹(指導担当)	宮崎県教育委員会
〃	水尾彰太	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事(指導担当)	宮崎県教育委員会
〃	田爪鉄平	宮崎県教育庁スポーツ指導センター 指導主事(指導担当)	宮崎県教育委員会
〃	松下修士	宮崎県教育庁北部教育事務所 教育推進課長	北部教育事務所
〃	池袋豊	宮崎県教育庁北部教育事務所 指導主事	北部教育事務所
〃	岩切隆人	延岡市教育委員会 学校教育課長	延岡市教育委員会
〃	湯川哲	高千穂町教育委員会 教育総務課長	高千穂町教育委員会
〃	平川誠二	日之影町教育委員会 教育次長	日之影町教育委員会
〃	垣内広好	五ヶ瀬町教育委員会 教育次長	五ヶ瀬町教育委員会
〃	安保隆昭	延岡市教育委員会 指導主事	延岡市教育委員会
〃	大石彰	高千穂町教育委員会 主幹	高千穂町教育委員会
〃	奈須康浩	日之影町教育委員会 指導主事	日之影町教育委員会
〃	堀川貴史	五ヶ瀬町教育委員会 指導主事	五ヶ瀬町教育委員会
〃	安在康喜	地区実行委員会 会長	延岡市立西階中学校
〃	有水浩智	宮崎県学校体育研究会 理事長	宮崎県立宮崎南高等学校
〃	年永健二	宮崎県学校体育研究会 副理事長	宮崎市立生目台東小学校
〃	前田浩司	宮崎県学校体育研究会 副理事長	宮崎市立宮崎西中学校
〃	門村裕香	宮崎県学校体育研究会 副理事長	宮崎県立みなみのかぜ支援学校
〃	安藝良介	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎市立国富小学校
〃	上妻憲祐	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎市立宮崎西中学校
〃	佐久間英二	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎県立宮崎南高等学校
〃	長友啓輔	宮崎県学校体育研究会 理事	宮崎県立清武せいりゅう支援学校
〃	大久保高広	地区実行委員会 委員長	延岡市立土々呂中学校
〃	(佐久間英二)	宮崎県学校体育研究会 事務局担当	宮崎県立宮崎南高等学校



## 宮崎県学校体育研究会 事務局

〒880-0926

宮崎市月見ヶ丘5丁目2番1号

(宮崎県立宮崎南高等学校 内)

宮崎県高等学校体育連盟事務局)

TEL 0985-51-4109

FAX 0985-51-4298

E-mail [info@miyazaki-koutairen.com](mailto:info@miyazaki-koutairen.com)